

NEC

P C 9 8 -

NX

PC98-**NX** SERIES

VersaPro NX

VA50J/BH・VA40H/BS
VA33H/BC

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

マニュアルの 主な内容

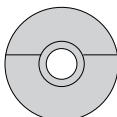
このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。



- 『はじめにお読みください』
このパソコンの接続方法やWindowsのセットアップ手順について説明しています。
 - ・型番の確認
 - ・添付品の接続
 - ・Windowsのセットアップ
 - ・マニュアル紹介



- 『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。
 - ・再セットアップの方法



『マニュアル CD-ROM』

『活用ガイド ハードウェア編』、『活用ガイド ソフトウェア編』がPDF形式で収録されています。利用方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

- 『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。
 - ・キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
 - ・周辺機器の接続と利用方法
 - ・システム設定について
- 『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。
 - ・アプリケーションの利用方法
 - ・他のOSを利用する場合の設定
 - ・トラブル解決Q&A

「印刷マニュアル」を選択された場合は、上記のほか、『活用ガイド ハードウェア編』と『活用ガイド ソフトウェア編』の紙マニュアルが添付されます。



はじめに

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2000年 1月 初版

対象機種

VA50J/BH、VA40H/BS、VA33H/BC

808-883877-024-A

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性あります。



用

語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

10.4型 (SVGA) モデル	10.4型の液晶ディスプレイに、解像度800×600ドットの画面を表示できるモデルのことです。
12.1型 (SVGA) モデル	12.1型の液晶ディスプレイに、解像度800×600ドットの画面を表示できるモデルのことです。
12.1型 (XGA) モデル	12.1型の液晶ディスプレイに、解像度1,024×768ドットの画面を表示できるモデルのことです。
CD-ROMモデル	外付CD-ROMドライブが添付されているモデルのことです。
ワイヤレスモデル	ワイヤレス通信機能を内蔵し、別売のワイヤレスモデムステーションやAtermIWシリーズと無線通信が可能なモデルのことです。
PIAFSモデル	PHSインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。

バッテリーパック(M)モデル	バッテリーパック(M)標準の容量が添付されているモデルのことです。
バッテリーパック(L)モデル	バッテリーパック(L)大容量が添付されているモデルのことです。
Windows 98モデル	Windows 98があらかじめインストールされているモデルのことです。
Windows 95モデル	Windows 95があらかじめインストールされているモデルのことです。
一太郎モデル	一太郎10・花子10パックがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 PersonalまたはOffice 2000 Professionalがあらかじめインストールされているモデルのことです。
【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタートボタン」→ 「プログラム」→ 「アクセサリ」→ 「メモ帳」	「スタートボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「コントロールパネル」 を開く	「スタートボタン」→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
一太郎10パック	一太郎10・花子10パック(一太郎10、花子10、三四郎9、ATOK13)
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal
Office 2000 Professional	Microsoft® Office 2000 Professional
MS-IME98	Microsoft® IME98
MS-IME2000	Microsoft® IME2000
Acrobat Reader	Adobe® Acrobat™ Reader 3.0J
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5 またはMicrosoft® Internet Explorer 4.01 SP2

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

ご注意

本機をWindows 98でお使いの場合、本書のPART1とPART2は、本機をAPMモードで使用していることを前提に記載されていますので、ACPIモードで使いたい方は、PART4 付録の「Windows 98のACPIモードについて」をご覧ください。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク・ロゴは参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	電話回線
VA50J / BH	LAN内蔵モデルおよび 内蔵モデムのみモデル	A99-0840JP
VA40H / BS	PIAFSモデル	A99-0841JP
VA33H / BC	ワイヤレスモデル	A99-0923JP

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

〔バッテリーバックを取り付けていない場合〕

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

〔バッテリーバックを取り付けている場合〕

本装置にバッテリーバック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

CD-ROMモデルには、レーザに関する安全基準（JIS-C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが添付されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス「NEC UltraCare®」対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。
サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/>
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie、NetMeeting、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。商標「三四郎」は株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10バック」「Shuriken」「Sasuke」は、株式会社ジャストシステムの商標です。

「一太郎10・花子10バック」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10バック」にかかる著作権その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Puma Technology、Puma Technologyロゴ、DSX Technology、DSX Technologyロゴ、IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPuma Technology, Inc.の商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

pcANYWHERE32およびpcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

Vital CDはFar stone Tech, Inc.の登録商標です。

IntelおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。

Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions)は、Intel® LANDesk® Client Managerのテクノロジーを使用しています。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。(ただし、海外保証サービス NEC UltraCare® 対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを行います。)本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可をせずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

本機の機能	15
各部の名称	16
本体前面	16
本体背面	17
本体底面	17
表示ランプ	18
ワンタッチスタートボタン	20
ワンタッチスタートボタンを使う	20
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	21
キーボード	23
キーの名称	23
キーの使い方	24
キーボードの設定をする	26
日本語入力の使い方	27
NXパッド	29
NXパッドの使い方	29
NXパッドの設定をする	30
内蔵ハードディスク	31
ハードディスク使用上の注意	31
ハードディスクの購入時の状態	31
領域の確保とフォーマット	31
ハードディスクのメンテナンス	34
フロッピーディスクドライブ	36
使用できるフロッピーディスクの種類	36
フロッピーディスクドライブを取り付ける	37
各部の名称と役割	38
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方	38
CD-ROMドライブ	39
名称と役割	39
使用上の注意	41
CD-ROMのセットのしかたと取り出し方	42
Virtual CD 2を使う	43
液晶ディスプレイ	48
表示を調整する	48
表示できる解像度と表示色	48
解像度と表示色を変更する	49
バーチャルスクリーン(12.1型(SVGA)モデル/10.4型(SVGA)モデルのみ) ..	51
デュアルディスプレイ機能(Windows 98モデルのみ)	53

ディスプレイストレッチ機能	55
画面回転機能	55
バッテリー	57
バッテリーで本機を使うときの注意	57
充電のしかた	58
バッテリー残量の確認	59
バッテリーリフレッシュ	61
バッテリーパックの交換	63
バッテリー容量を増やす	66
省電力機能(Windows 98の場合)	70
省電力機能とは	70
スタンバイ状態(サスペンド)	71
休止状態(ハイバネーション)	74
パワーマネージメント	79
電源管理のモード	81
省電力機能(Windows 95の場合)	82
省電力機能とは	82
スタンバイモード	83
サスペンド	83
ハイバネーション	87
パワーマネージメント	93
セキュリティ機能	94
本機のセキュリティ機能	94
パスワード	94
ハードディスクのパスワード	99
スマートカード / 指紋認証ユニット	103
その他のセキュリティ機能を使う	103
赤外線通信機能	104
赤外線通信を行う前に	104
機器の配置について	106
赤外線通信をする	107
サウンド機能	109
ボリュームコントロールを表示させる	109
表示項目を切り替える	111
トーン調整で調整する	113
内蔵モデム	114
電話回線との接続	114
ダイヤル設定のしかた	116
通信機能使用上の注意	118
インターネットへの通信環境を切り替える	119

ワイヤレス通信機能	125
ワイヤレス通信機能を使う	125
ワイヤレス通信機器を使用するときの注意	126
ワイヤレス通信機能を活用する	127
インターネットへの通信環境を切り替える	128
PHS インターフェイス	129
PHSとの接続	129
ダイヤル設定	131
PHSインターフェイス使用上のご注意	133
LAN(ローカルエリアネットワーク)	134
LANへの接続	134
運用上の注意	136
本機の運用管理	137
周辺機器を使う	139
接続できる周辺機器	140
本体前面 / 右側面	140
本体背面 / 左側面	141
本体底面	142
周辺機器の利用	143
周辺機器利用上の注意	143
プリンタ	147
プリンタの接続	147
プリンタの設定	148
外部ディスプレイ	153
CRTディスプレイの接続	153
プロジェクタの接続	155
外部ディスプレイの設定	155
PC カード	158
使用上の注意	158
PCカードのセットのしかたと取り出し方	160
PCカードの設定	162
メモリ	163
メモリ容量について	163
メモリの取り付け方と取り外し方	163
USB コネクタ	170
USBとは	170

PART

3

PART

4

USBコネクタに接続する	170
その他の機器	173
シリアルコネクタ	173
パラレルコネクタ	173
DCコネクタ	174

システムの設定 175

BIOSセットアップメニュー	176
BIOSセットアップメニューを使ってできること	176
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには	176
BIOSセットアップメニューを使う	177
BIOSセットアップメニューを終了する	178
工場出荷時の値に戻す	178
設定項目一覧	179

付録 191

本機のお手入れ	192
お手入れをはじめる前に	192
お手入れをする	193
FAT32ファイルシステムの利用	194
FATとは	194
FAT32ファイルシステムを使用するときの注意	194
FAT32を利用するには	195
Windows 98のACPIモードについて	196
ACPIモード時の制限事項	196
モードを確認する	198
モードの切り替え方	199
機能一覧	203
仕様一覧	203
内蔵FAXモデム機能仕様	206
PHS(PIAFS)インターフェイス	208
ワイヤレス通信機能	208
内蔵LAN機能仕様(LAN内蔵モデルのみ)	209
割り込みレベルとDMAチャンネル	210
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	210

索引 213

P A R T

1

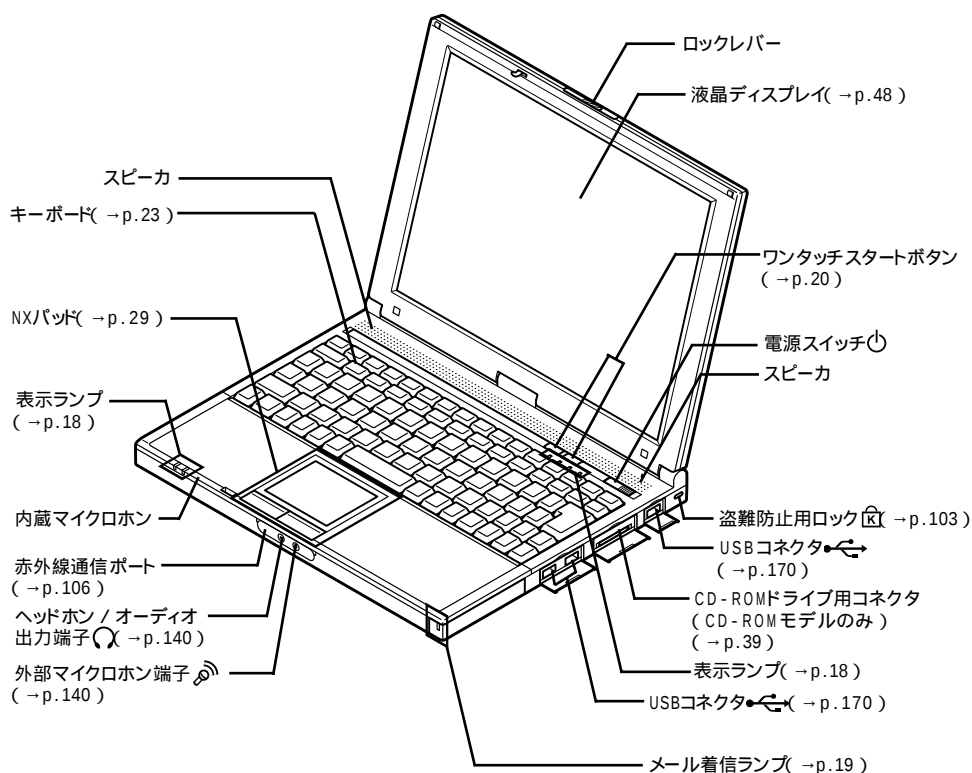
本機の機能

本機の各部の名称とさまざまな機能について説明しています。

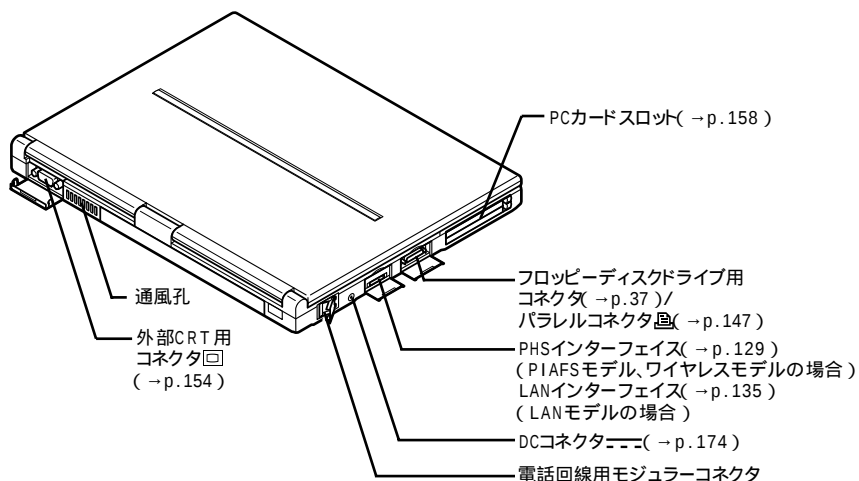
各部の名称

本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

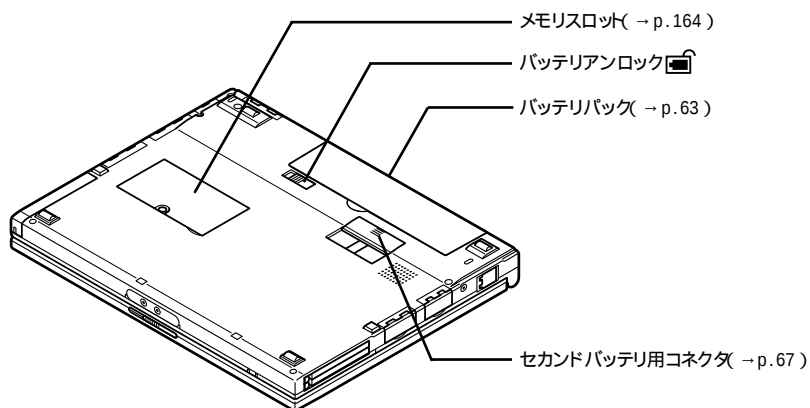
本体前面



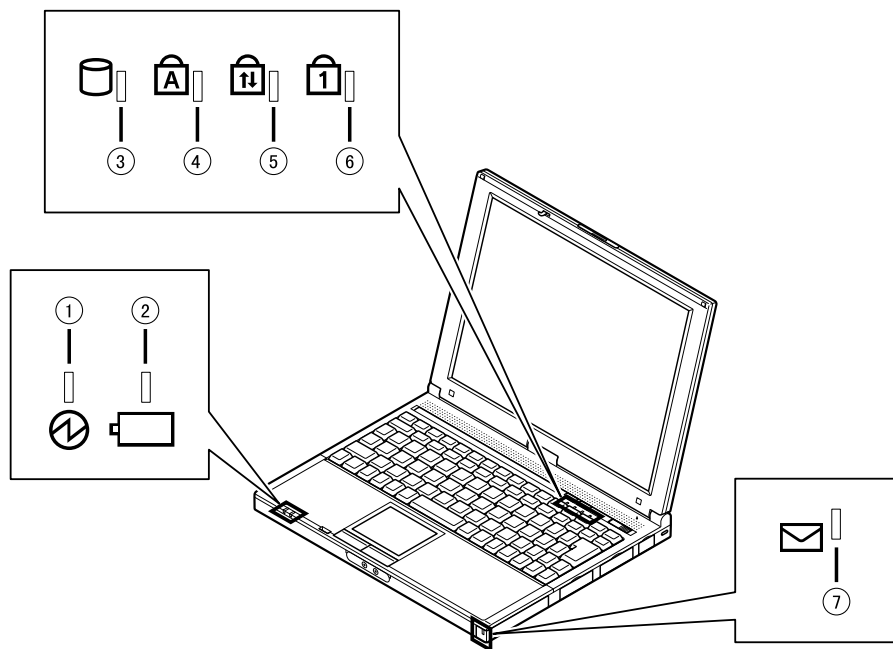
本体背面



本体底面



表示ランプ



電源ランプ (①)

ランプ		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態(ハイバネーション)

バッテリー充電ランプ()

ランプ	本機の状態
オレンジ	点灯 バッテリバック充電中
緑	点灯 セカンドバッテリーバック充電中
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了 セカンドバッテリー接続中のみ

アクセスランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	ハードディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー右上の青い文字が入力されます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上の白い文字が入力されます。

メール着信ランプ()

ランプ	本機の状態
緑点灯	メール着信あり、またはPIAFS圏内
消灯	メール着信なし、またはPIAFS圏外

ワイヤレスモデルの場合、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「PIAFS使用時のランプ切り替え(Lamp switch when PIAFS is used)」を「圏内(Area)」に設定すると、ランプを別売のワイヤレスモデムステーションなどの親機の圏内にいるかどうかを確認する機能に切り替えることができます(→ p.189)。

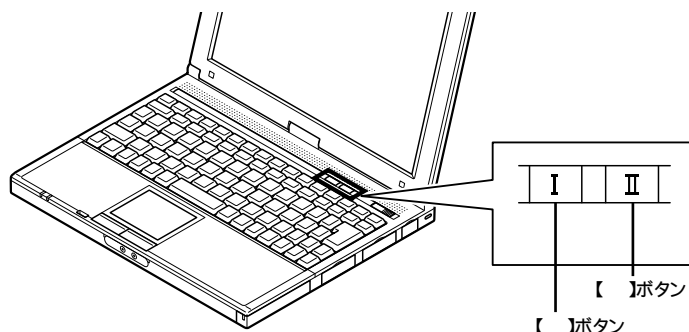
電源が入っているとき、またはスタンバイ状態(サスペンド)であれば、メール着信があると常に点灯します。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

本機には次のワンタッチスタートボタンがあります。



チェック!! MS-DOSモードで起動した場合や、Windows 98 / Windows 95のSafeモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【 】ボタン、【 】ボタン

【 】ボタン、【 】ボタンを押すと、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。

ご購入時は、それぞれのボタンを押すと「インターネット接続ウィザード」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で行います。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」を使うと、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時 または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

タスクトレイにあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 → ワンタッチスタートボタンの設定→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【】ボタンに「インターネットエクスプローラ」を割り当てる方法を説明します。

- 1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する
- 2 「ボタン設定」タブをクリックする
- 3 「スタートメニューの中から選択」を選ぶ
- 4 「機能リスト」欄の「プログラム」フォルダをダブルクリックする
インターネットエクスプローラ4.0をお使いの場合はさらに「Internet Explorer」フォルダをダブルクリックする
- 5 「Internet Explorer .lnk」をクリックする

6 【 】ボタン(ボタン1)の上のボタン名称欄をクリックする

7 「設定」ボタンをクリックする
ボタン名称が「Internet Explorer」と表示されます。

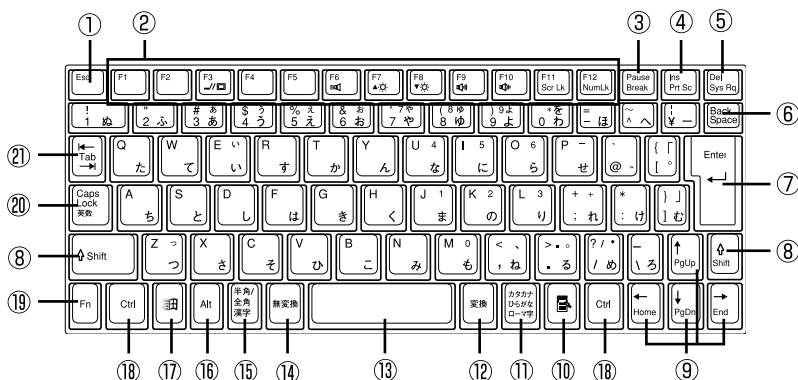
8 「OK」ボタンをクリックする

9 「はい」ボタンをクリックする

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ③【Pause】: ポーズキー
- ④【Ins】: インサートキー
- ⑤【Del】: デリートキー
- ⑥【Back Space】: バックスペースキー
- ⑦【Enter】: エンターキー（リターンキー）
- ⑧【Shift】: シフトキー
- ⑨【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー
- ⑩【☰】: アプリケーションキー
- ⑪【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑫【変換】: 変換キー
- ⑬スペースキー
- ⑭【無変換】: 無変換キー
- ⑮【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー
- ⑯【Alt】: オルトキー
- ⑰【☞】: Windowsキー
- ⑱【Ctrl】: コントロールキー
- ⑲【Fn】: エフエヌキー
- ⑳【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑【Tab】: タブキー

キーの使い方

特殊なキーの使い方

キー操作	説 明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】 または 【半角 / 全角】 (MS-IME98、MS-IME2000使用時のみ)	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】 (MS-IME97使用時を除く)	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせで機能を実行します(→p.25)

ホットキー機能【Fn】の使い方

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは【Fn】と同じ色（青）でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+電源スイッチ	休止状態 (ハイバネーション)	Windows 98使用時、休止状態にします(→p.70) Windows 95使用時、ハイバネーションにします(→p.82)
【Fn】+【Esc】	スタンバイ状態 (サスペンド)	Windows 98使用時、スタンバイ状態にします(→p.70) Windows 95使用時、サスペンドにします(→p.82)
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え 	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→p.155)
【Fn】+【F4】	スリープ状態 ¹	Windows 98使用時、スリープ状態にします(→p.70)
	スタンバイモード	Windows 95使用時、スタンバイモードにします(→p.82)
【Fn】+【F5】	節電レベル選択	キーを押すごとに、節電のモードを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節 	ビープ音の音量を調節します(なし、小、中、大)
【Fn】+【F7】	輝度を上げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F8】	輝度を下げる 	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F9】	音量を上げる 	キーを押すごとに、スピーカの音量が上がります。
【Fn】+【F10】	音量を下げる 	キーを押すごとに、スピーカの音量が下がります。
【Fn】+【F11】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【F12】	ニューメリックロック	一度キーを押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー上段に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、通常の文字が入力できるようになります。

【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】+【←】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【→】	End	【End】の役割
【Fn】+【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割

1 BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「スリープ種別(Suspend Option)」で、スタンバイ状態(サスペンド)にするか、休止状態(ハイバネーション)にするかを設定できます(→p.185)。

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F7】/【F8】を除く)。

キーボードの設定をする

1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

「キーボードのプロパティ」が表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時の繰り返し入力のタイミング調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

それぞれの設定について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

別売のキーボードを使うには

別売のPS/2タイプのテンキーボードやキーボードを接続して使用するには、別売のUSBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012N)が必要になります。

日本語入力の使い方

本機では、次の日本語入力システムが使用できます。

モデル	Windows 98	Windows 95
Office 2000モデル	MS-IME2000	MS-IME2000
一太郎モデル ¹	ATOK13 MS-IME98	ATOK13 MS-IME98 MS-IME97
その他のモデル	MS-IME98	MS-IME98 ² MS-IME97

¹ 購入時の設定ではATOK13が使用できるようになっています。

² 購入時の設定ではMS-IME98が使用できるようになっています。

入力方法や操作方法については、各日本語入力システムの「ヘルプ」をご覧ください。

日本語入力のオン、オフを切り替えるには

オンにするには

- 1 タスクトレイにある  をクリックする
- 2 表示されたメニューの「日本語入力-オン」をクリックする
これで日本語入力がオンになりました。

オフにするには

- 1 タスクトレイにある  をクリックする
- 2 表示されたメニューの「日本語入力-オフ」をクリックする
これで日本語入力がオフになりました。

MS-IME2000(Office 2000モデルのみ)/MS-IME98の「ヘルプ」を参照するには

- 1 MS-IME2000 / MS-IME98のツールバーから「ヘルプ」ボタンをクリックする



- 2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする
- 4 「ヘルプ」を終了したいときはをクリックする

MS-IME97の「ヘルプ」を参照するには

- 1 MS-IME97のツールバーから「ヘルプ」ボタンをクリックする



- 2 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする
- 3 「ヘルプ」を終了したいときにはをクリックする

ATOK13の「ヘルプ」を参照するには(一太郎モデルのみ)

- 1 ATOKパレットから「メニュー」ボタンをクリックする



- 2 メニューの中から「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする
- 4 「ヘルプ」を終了したいときはをクリックする

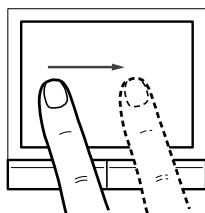
NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方

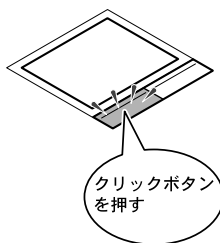
ポインタ(カーソル)の移動

パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。



クリックとダブルクリック

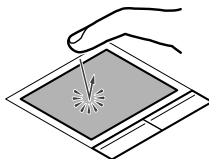
画面上のボタンやアイコンにポインタを合わせ、左のクリックボタンを1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。



■ 右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

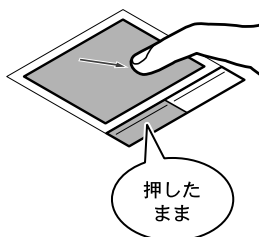
タップとダブルタップ

指先でパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回連続してたたくことを「ダブルタップ」といいます。それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。

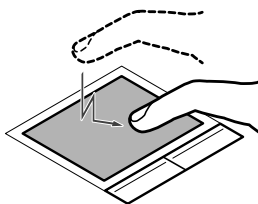


ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左クリックボタンを押したまま指をパッド上で軽くすべらせると、ドラッグできます。



アイコンやフォルダの上にポインタを乗せた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにスライドさせてもドラッグできます。



NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウインドウでは、ウインドウの左上の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

- ・ボタンの設定
- ・ポインタデザインの選択
- ・ポインティングデバイスの動作の調節
- ・タッピングの調節
- ・ジェスチャーの設定(NXパッド使用時のみ設定可能)
- ・その他の設定

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください

内蔵ハードディスク

ハードディスクとはWindowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。

ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。

特に、ユーザが作成したデータなどは再セットアップしても元どおりにはなりません。

大切なデータは、フロッピーディスクやMOなどの、ハードディスク以外の媒体に、定期的にバックアップをとっておくことをおすすめします。

ハードディスクの購入時の状態

本機では、ご購入時の状態では、次のようにハードディスクの領域が確保されています。

CDドライブ	Dドライブ
FAT16ファイルシステム (約2Gバイト)	FAT32ファイルシステム (残りの領域)

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

次の手順にしたがって領域の確保とフォーマットを行ってください。

領域の確保

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」で「MS-DOS プロンプト」をクリックする

「C: ¥WINDOWS>」が表示されます。

2 ハードディスクの容量と領域の情報を確認する

FDISK【Enter】と入力する

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら「Y」を選び、【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されたら「4. 領域情報を表示」を選ぶ

表示された画面で、ハードディスクの容量を確認する

【Esc】を押す

【Esc】を押す

「C: ¥WINDOWS>」と表示されます。

3 ハードディスクの容量が8,192Mバイト以下の場合はFDISK /X

【Enter】と入力する

ハードディスクの容量が8,193Mバイト以上の場合はFDISK

【Enter】と入力する

4 【N】を選んで【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。

【Y】を選択すると、FAT32で領域が作成されます。FAT32を利用するには、PART4の「FAT32ファイルシステムの利用」(→p.194)をご覧ください。

5 【1】を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

6 【2】を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。



チェック!!

確保される領域は入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとする、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

7 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

8 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

9 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

- 10** 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順9を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる
「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

11 【Esc】を3回押す

「C: ¥WINDOWS>」の表示に戻ります。

12 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す

Windowsの画面に戻ります。

13 本機を再起動する

フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。



チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。フォーマットをする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」をダブルクリックする**2** 新たに領域を確保したドライブをクリックする**3** 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
フォーマットの画面が表示されます。**4** 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「スタート」ボタンまたは「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

スキャンディスクについては、次項の「ハードディスクのメンテナンス」をご覧ください。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する

複数の領域を確保したいときは、手順2～11の操作を繰り返してください。

ハードディスクのメンテナンス

Windows 98/Windows 95には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

スキャンディスク

ハードディスクの表面やハードディスクに保存されているデータに、障害がないかどうかを調べるためのWindowsのツールです。もし障害があった場合は、可能な範囲で修復することができます。

スキャンディスクを実行するには、次の手順で操作してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「スキャンディスク」をクリックする
「スキャンディスク」ウインドウが表示されます。

2 「エラーチェックをするドライブ」の一覧から、チェックするドライブをクリックする

ここではハードディスクドライブを選びます。

3 「開始」ボタンをクリックする

チェックが始まります。チェックには数分から数十分かかることがあります。

チェックが終了すると、「結果レポート」が表示されます。

デフラグ

ハードディスクは長い間使用していると断片化がおこります。断片化とは、データがハードディスクにばらばらに保存されることで、データの読み書きのスピードの低下につながります。デフラグを実行すると、ばらばらに記録されたデータが最適化されます。

デフラグを実行するには、次の手順で操作してください。

用語 デフラグ

「フラグメンテーション(断片化)を解消する」の意味の省略語。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」で「デフラグ」をクリックする

2 表示された「ドライブ選択」ウィンドウのリストからデフラグするハードディスクドライブを選ぶ

3 「OK」ボタンをクリックする

Windows 98の場合、ディスクの最適化が始まります。

Windows 95の場合、「ディスクの最適化」ウィンドウが表示されます。メッセージを確認し、最適化を行う場合は「開始」ボタンをクリックしてください。

「ディスクの最適化」が終了したら、画面の指示に従い、デフラグを終了してください。

 **チェック!!** デフラグの実行中は、絶対に電源を切ったり、再起動したり、スタンバイ状態(サスペンド)や休止状態(ハイバネーション)にしないでください。

フロッピーディスクドライブ

本機には外付3.5インチフロッピーディスクドライブが1台添付されています。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

作業内容 フォーマット	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
640Kバイト	-	-	-
720Kバイト	○	○	○
1.44Mバイト	○	○	○
1.2Mバイト	○		

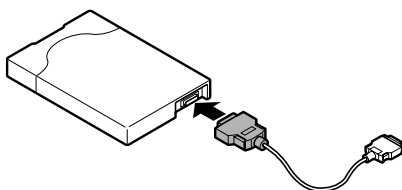
○ : 使用可
: Windows NTでのみ使用可
- : 使用不可

- ✓チェック!!**
- ・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
 - ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください（これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です）。
 - ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
 - ・MS-DOS Ver. 6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」のFDドライブアイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
 - ・Windows 98使用時に2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

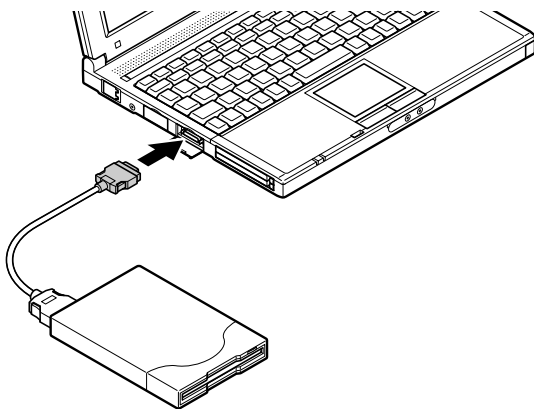
フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機でフロッピーディスクを使用する場合は、添付のフロッピーディスクドライブを専用FDDケーブルを使って取り付けます。

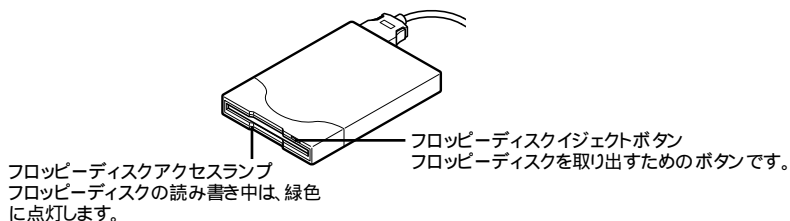
- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** フロッピーディスクドライブのコネクタに専用FDDケーブルを取り付ける



- 4** フロッピーディスクドライブ用コネクタカバーを開く
- 5** 取り付けた専用FDDケーブルのコネクタのもう一方を、本体左側面のフロッピーディスクドライブ用コネクタに取り付ける



各部の名称と役割



フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

フロッピーディスクのセットのしかた

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとフロッピーディスクイジェクトボタンが少し飛び出します。

フロッピーディスクの取り出し方

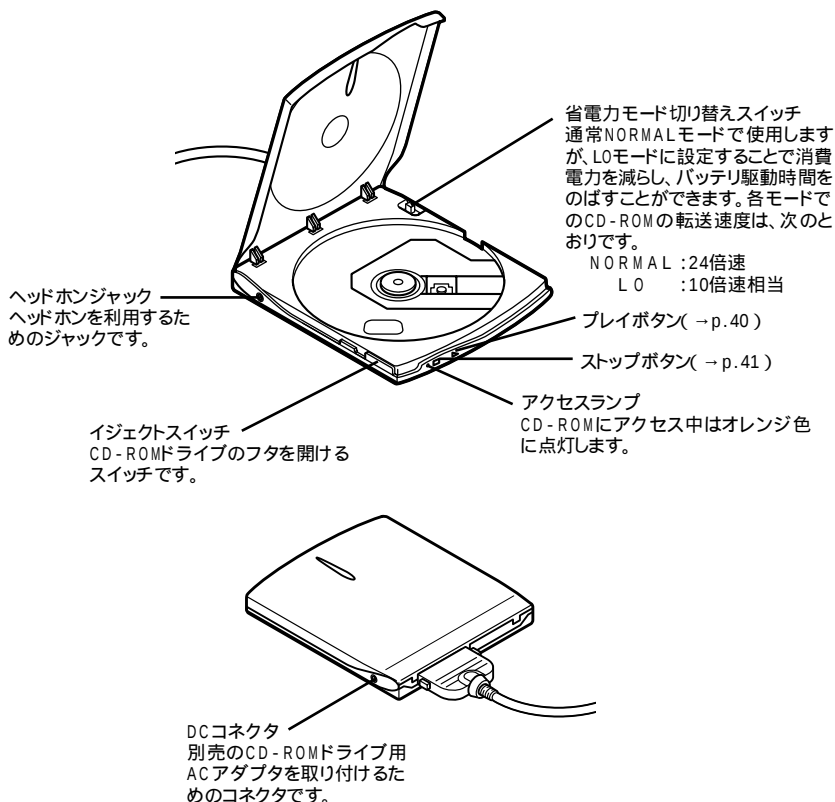
- 1 フロッピーディスクイジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。
- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

✓チェック!! フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

CD-ROMドライブ

ここでは、CD-ROMモデルに添付の外付CD-ROMドライブについて説明します。外付CD-ROMドライブの取り付けについては、『はじめにお読みください』の「添付品の接続」をご覧ください。

名称と役割



CD-ROMドライブのイジェクトスイッチやアクセラランプやDCコネクタの位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

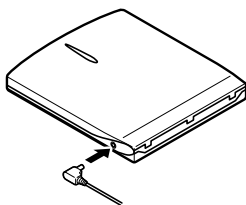
CD-ROMドライブのプレイボタン・ストップボタンを使う

添付の外付CD-ROMドライブに、別売のCD-ROMドライブ用ACアダプタとヘッドホンを取り付けると本機と接続しなくても、音楽CDなどを聞くことができます。その際は、CD-ROMドライブにあるプレイボタンとストップボタンを使って操作します。

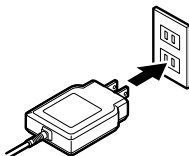
プレイボタン・ストップボタンは、本体に接続しているかどうかにかかわらず使用することができます。

別売のCD-ROMドライブ用ACアダプタの取り付け

1 CD-ROMドライブ用ACアダプタをDCコネクタに差し込む



2 CD-ROMドライブ用ACアダプタのプラグをコンセントに差し込む



プレイボタン

プレイボタンを押す時の状態によって、機能が異なります。

プレイボタンを押すときの状態	機能
停止状態で押す	CDの最初のトラックから再生する
ポーズ(一時停止)状態で押す	一時停止した位置からCDを再生する
再生状態でプレイボタンを約2.5秒以上押し続ける	- 現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒未満の場合 前のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する - 現在再生中のトラックの再生がはじまってから10秒以上の場合 現在再生中のトラックの最初にジャンプし、CDを再生する

ランダム再生中も含む

ストップボタン

ストップボタンを押す時の状態によって、機能が異なります。

ストップボタンを押す時の状態	機能
CDを再生中に押す	ポーズ(一時停止)状態になる
ポーズ(一時停止)状態で押す	停止状態になる

ポーズ(一時停止)状態が32秒以上続いた場合、自動的に停止状態になります。次に再生したときにはポーズ(一時停止)した位置ではなく、CDの最初から再生されます。

プレイボタン・ストップボタンの同時押し

CDを再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に約1秒以上押すと、再生中のCDが自動的にランダム再生になります。また、ランダム再生中に、プレイボタンとストップボタンを同時に押し続けると、ランダムに次のトラックにジャンプします。

ランダム再生機能を解除したい場合は、次の操作を行ってください。

- ・ 停止状態にする
- ・ CD-ROMドライブのフタを開ける
- ・ アプリケーションで再生 / 停止の操作をする

✓チェック!! このパソコンにインストールされているアプリケーションを利用してCDを再生中にCD-ROMドライブのプレイボタン・ストップボタンを押しても、有効に動作しない場合があります。また、ランダム再生中にアプリケーションを起動すると、ランダム再生モードが解除されます。

使用上の注意

- ・ CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプが点灯しているときは、CD-ROMを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ・ 故障の原因となるため、CD-ROMの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。
- ・ CD-ROMセット中、動作や振動が気になる場合は、CD-ROMドライブのフタを開けて省電力モード切り替えスイッチをL0モードにしてください。
- ・ 本体を移動するときは、CD-ROMドライブ用ケーブルを本体から取り外してください。取り外さずに本体を移動すると故障の原因となることがあります。

- ・ 本体またはCD-ROMドライブからCD-ROMドライブ用ケーブルを外すときは、CD-ROMドライブ用ケーブルの左右のロックを解除して取り外してください。左右のロックを解除しないでCD-ROMドライブ用ケーブルを引き抜くと、故障の原因となることがあります。
- ・ CD-ROMドライブを本体に接続しているときに、ヘッドホンジャックにヘッドホンを接続しても本体のスピーカまたは本体に接続したヘッドホンからはCD音声が出力されます。
- ・ 接続されていないCD-ROMドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想のCD-ROMドライブです。

 仮想CD-ROMドライブについて→「Virtual CD 2を使う」(p.43)

CD-ROMのセットのしかたと取り出し方

CD-ROMのセットのしかた

- 1** イジェクトスイッチをスライドする
フタが少し開きます。
- 2** 手で静かにフタを開ける
- 3** CD-ROMのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む
- 4** フタをカチッと音がするまで閉じる

CD-ROMの取り出し方

- 1** イジェクトスイッチをスライドする
フタが少し開きます。
- 2** 手で静かにフタを開けてから、CD-ROMを取り出す
- 3** フタをカチッと音がするまで閉じる

Virtual CD 2を使う

Virtual CD 2は、パソコンに仮想CD-ROMドライブを追加して、そのドライブで利用できる仮想CDを作成し、利用するためのアプリケーションです。作成した仮想CD-ROMドライブは、Windows上で通常のCD-ROMドライブを扱うような感覚で利用できます。

仮想CDとは、CD-ROMや音楽CDの内容をハードディスク上に1つのファイルとしてまとめたもので、Virtual CD 2によって追加された仮想CD-ROMドライブで使うことができます。

 **チェック!!** Virtual CD 2は、ご購入時にはインストールされていません。Virtual CD 2を使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

 **参照** Virtual CD 2のインストール→「活用ガイド ソフトウェア編」の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」

Virtual CD 2のおもな機能

Virtual CD 2には次のような機能があります。

- ・ 仮想CD-ROMドライブとハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、CD-ROMなどのディスクを利用するたびに入れ替えたり、外出時に持ち歩いたりする必要がなくなります。
- ・ ハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、通常のCD-ROMドライブにくらべて高速にデータの読み出しができます。
- ・ 仮想CD-ROMドライブを最大20台まで追加して使用できます。また、複数の仮想CD-ROMドライブを同時に使用できます。
- ・ 通常のCD-ROMだけでなく、音楽CDを仮想CDにすることができます。
- ・ 仮想CDは必要に応じてデータを圧縮できるので、ハードディスクの容量に応じて作成することができます。

Virtual CDマネージャの起動と終了

起動する

Virtual CDマネージャは、CD-ROMから仮想CDを作成したり、仮想CD-ROMドライブに仮想CDをセットしたり、取り出すためのアプリケーションです。次の手順で起動してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CD マネージャ」をクリックする

著作権についての注意事項が書かれた画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。「Virtual CD マネージャ」が表示されます。



■ タスクトレイに表示されている  をダブルクリックして起動することもできます。

終了する

Virtual CD マネージャを終了するときは、「Virtual CD マネージャ」画面の  をクリックしてください。

仮想CDを作成する

CD-ROMなどを仮想CD-ROMドライブで使用するには、CD-ROMから仮想CD (VCDファイル) を作る必要があります。仮想CDの作成は次の手順で行います。

1 仮想CDとして作成したいCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする

2 「Virtual CD マネージャ」を起動する

3 ツールバーの をクリックする

「VCDの構築」の画面が開きます。



- 4 「コピー元」欄の「CD-ROM」が、CD-ROMをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、▼をクリックして正しいドライブを選んでください。
- 5 「コピー先」の「ファイルの場所」で仮想CDを作成するドライブを選び、ファイル名を入力する
- 6 データ圧縮を行う場合は、「データ圧縮を使う」を☑にして、圧縮の比率を選ぶ
- 7 「VCDの説明」欄に、作成する仮想CDの説明を入力する
- 8 「OK」ボタンをクリックする
仮想CDの作成がはじまります。

音楽CDをVCDファイルにする

Virtual CD 2では音楽CDの仮想CDを作成して再生することができます。また、好きな曲だけを選んで仮想CDにすることも可能です。音楽CDを仮想CDにするときは次の手順で行います。

- 1 仮想CDとして作成したい音楽CDをCD-ROMドライブにセットする
- 2 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 3 ツールバーのをクリックする
「CDオーディオからのVCD作成」の画面が開きます。



- 4** 「トラック選択」の「CD-ROM」が、音楽CDをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、をクリックして正しいドライブを選んでください。
- 5** 「トラック選択」で曲を選ぶ
一度クリックすると反転表示になり選択されます。もう一度クリックすると選択を解除します。
- 6** 「記録先」の「フォーマット選択」ボタンをクリックする
「サウンドの選択」の画面が表示されます。
- 7** 「サウンド名」の☒をクリックして音質を選ぶ
より細かく設定したい場合は「形式」や「属性」で設定してください。
- 8** 「OK」ボタンをクリックする
「サウンドの選択」の画面が閉じます。
- 9** 「ファイル名」と「説明」を入力する
- 10** 「ボリュームコントロール」ボタンをクリックする
「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。
- 11** 録音レベルを調節する
-  参照 録音レベルの調節→このPARTの「サウンド機能」(p.109)
- 12** 「ボリュームコントロール」のをクリックして画面を閉じる
- 13** 「録音開始」ボタンをクリックする
仮想CDの作成がはじまります。
仮想CDの作成が終了すると、「VCD(CDオーディオ)の作成に成功しました。」と表示されます。
- 14** 「OK」ボタンをクリックする

作成した仮想CDを使う

仮想CDをセットする

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「VDrive」ウィンドウで使用する仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 右側のウィンドウで使用する仮想CDを選ぶ
- 4 ツールバーのをクリックする

仮想CDを使う

「仮想CDをセットする」の手順にしたがってセットしたあとは、通常のCD-ROMドライブにCD-ROMがセットされているのと同じように、仮想CD-ROMドライブを使用することができます。

仮想CDを取り出す

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「VDrive」ウィンドウで仮想CDを取り出したい仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 ツールバーのをクリックする

参照 Virtual CD 2の詳しい使いかたについて→「Virtual CD 2 マニュアル」

「Virtual CD 2 マニュアル」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CD 2 マニュアル」をクリックすると表示されるオンラインのマニュアルです。

「Virtual CD 2 マニュアル」をご覧になるには、Acrobat Readerが必要です。インストールされていない場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイで表示できる解像度と表示色について説明しています。

本機は、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタなどに画面を表示することもできます。

参照 別売のディスプレイやプロジェクタについて→PART2の「外部ディスプレイ」(p.153)

表示を調整する

キーボードの【Fn】キーを使うと、次のような表示の調整ができます。

機 能	キー操作	説 明
ディスプレイ切り替え 	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。
輝度を上げる 	【Fn】+【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)
輝度を下げる 	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)

表示できる解像度と表示色

用語 解像度

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

本機のカラー液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売の ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ¹
640×480ドット	16色			
	26万色中256色			
	65,536色			
	1,677万色 ²			
800×600ドット	26万色中256色			
	65,536色 ³			
	1,677万色 ²			
1,024×768ドット	26万色中256色	○		○
	65,536色 ⁴	○		○
	1,677万色			

：フルスクリーン表示可能

○：12.1型(XGA)モデルでは、フルスクリーン表示可能

12.1型(SVGA)モデル / 10.4型(SVGA)モデルでは、バーチャルスクリーン表示(→p.51)

：12.1型(XGA)モデルでは、フルスクリーン表示可能

12.1型(SVGA)モデル / 10.4型(SVGA)モデルでは表示不可

1：別売CRT未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現

3：12.1型(SVGA)モデル / 10.4型(SVGA)モデル購入時の設定

4：12.1型(XGA)モデル購入時の設定

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

本機の画面の設定を変更する

■ Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 画面の領域または色を変更する

画面の領域を変更する場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向にドラッグすると低解像度になります。

色を変更する場合

「色」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。

この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする このあとは、画面の指示に従って操作してください。

■ Windows 95の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

2 「ディスプレイの詳細」タブをクリックする

3 デスクトップの領域または色を変更する

デスクトップの領域を変更する場合

「デスクトップ領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色を変更する場合

「カラーパレット」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。

この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタに対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バーチャルスクリーン(12.1型(SVGA)モデル/10.4型(SVGA)モデルのみ)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。

ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、マウスポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。マウスポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

■ Windows 98の場合

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4** 「次へ」ボタンをクリックする
- 5** 検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 6** 「すべてのハードウェアを表示」を選択する
- 7** 「モデル」から「ラップトップディスプレイパネル(1024×768)」をクリックする
- 8** 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9** 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする

10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「ディスプレイの詳細」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640×480ドット / 800×600ドット / 1,024×768ドット

■ Windows 95の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

2 「ディスプレイの詳細」タブをクリックし、「詳細プロパティ」ボタンをクリックする

3 「モニター」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

4 「すべてのデバイスを表示」をクリックする

5 「デバイスの選択」で、「モデル」から「ラップトップディスプレイパネル(1024×768)」をクリックし、「OK」ボタンをクリックする

6 「閉じる」ボタンをクリックする

7 メッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックする

8 さらにメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

9 「画面のプロパティ」に戻ったら、「デスクトップ領域」でつまみを「1024×768ピクセル」にドラッグする

10 「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をしたあとは、「ディスプレイの詳細」タブで次の解像度を設定できるようになります。

640×480ドット / 800×600ドット / 1024×768ドット

デュアルディスプレイ機能(Windows 98モデルのみ)

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるのもので、表示できる範囲が広がります。デュアルディスプレイ機能は、Windows 98モデルのみの機能です。

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのとは別の機能です。

 **チェック!!** 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

 **参照** 別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイ」(p.153)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる

2 本機の電源を入れる

3 液晶ディスプレイの解像度と表示色を設定する

12.1型(XGA)モデルの場合は、液晶ディスプレイの解像度を1,024×768ドット、表示色を256色またはHigh Colorに設定してください。

12.1型(SVGA)モデル/10.4型(SVGA)モデルの場合は、液晶ディスプレイの解像度を800×600ドット、表示色を256色またはHigh Colorに設定してください。

 **参照** 解像度と表示色を設定するには→「解像度と表示色を変更する」(p.49)

4 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

5 「LynxEM」タブをクリックする

「ディスプレイの切り替え」欄に、「LCD」「CRT」「TV」の接続状態が表示されます。

6 「CRT」の「オン」をクリックして、にする
CRTへの表示がオンになります。

7 「OK」ボタンをクリックする

 **チェック!!** 接続した別売のディスプレイの電源が入っていないと、エラーメッセージが表示されてデュアルディスプレイ機能を利用することができません。

デュアルディスプレイ機能を使う

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 画面2の絵をクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 「はい」をクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができますようになります。

デュアルディスプレイ機能を解除する

1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1、2を行う

2 画面2の絵を右クリックする

3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする

4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチとは、640×480ドットまたは800×600ドット(12.1型(XGA)モデルのみ)の低解像度で表示しているときに、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能の設定

- ✓ **チェック!!** ディスプレイストレッチ機能を使う設定にするには、あらかじめ、液晶ディスプレイの解像度を640×480ドットまたは800×600ドット(12.1型(XGA)モデルのみ)にする必要があります。

- 1 画面右下のタスクトレイにあるSMIアイコンをダブルクリックする
または、コントロールパネルを開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「LynxEM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「ストレッチ」でオンのをクリックしてにする
- 3 「OK」ボタンをクリックする
これで拡大表示が行われます。

- ✓ **チェック!!** ・画面回転機能使用時は利用できません。
・800×600ドットの解像度でディスプレイストレッチ機能を使うと、画面がちらつくことがあります。その場合は、表示色は256色またはHigh Colorに設定してください。

画面回転機能

画面回転機能により画面を90, 180, 270度に回転させることができます。本機の液晶ディスプレイをいっばいに開き、画面を180度回転させることにより、向かい側にいる人にプレゼンテーションを行うことができます。

画面回転機能の設定



チェック!!

- ・バーチャルスクリーン機能使用時は利用できません。
- ・ディスプレイストレッチ機能使用時は利用できません。
- ・液晶ディスプレイの解像度や表示色の設定によって、回転できる角度が異なります。

解像度	表示色	90度、270度回転	180度回転
640 × 480	256色	○	○
	65,536色	○	○
	1677万色	×	×
800 × 600	256色	○	○
	65,536色	○	
	1677万色	×	×
1,024 × 768	256色		
	65,536色		×
	1677万色	×	×

○: 回転可能

: 12.1型(XGA)モデルのみ回転可能

×: 回転不可

1 画面右下のタスクトレイにあるSMIアイコンをダブルクリックする

または、コントロールパネルを開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「LynxEM」タブをクリックし、「特殊モード」の中の「回転」でオンのをクリックしてにする

3 「OK」ボタンを押す

「回転の設定」ウィンドウが表示されます。

4 90度、180度、270度の中から希望の角度をクリックし、「OK」ボタンをクリックする

画面が希望の角度に回転します。



チェック!!

解像度や表示色の設定によっては、メッセージが表示され、画面を回転させることができない場合があります。回転可能な解像度と表示色に変更し、再度設定してください。

バッテリー

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーで本機を使うときの注意

- ✓ **チェック!!** ・バッテリーが十分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
 - ・フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーフレッシュを実行する(→p.61)
- ・本機を1カ月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する

バッテリーの上手な使い方

- ・バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.70,82)

- ・バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、警告音が3回鳴り、電源ランプ (④) が黄色に点灯します。この場合は、次の操作を行ってください。

- ・ ACコンセントから電源を供給する

いったん本機の電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ (⑤) が点灯し、バッテリーの充電が始まります。

- ・ ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示されます。しばらくすると、自動的に休止状態 (ハイバネーション) (→ p. 70, 82) になります。

充電のしかた



- ・ **チェック!!** バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。

本機の電源を入れて使用していても充電されます。

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 バッテリーの充電時間について - 付録の「機能一覧」(p. 204)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます
(→ p.19)

充電状態	バッテリー充電ランプ 
バッテリー充電中	オレンジ点灯
セカンドバッテリー充電中	緑点灯
充電完了(フル充電)	消灯

セカンドバッテリー接続時のみ

バッテリー残量の確認

■Windows 98の場合

バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

- ・ Windowsのタスクトレイにある  の上にマウスポインタを合わせる



この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリーの残量により異なります。

- ・ タスクトレイの  をダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る



- ・ 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る



ACコンセントから電源を供給しているときは、🔋 は 🖱️ に変わります。

✔️ **チェック!!** フル充電されている状態では、バッテリー残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

■ Windows 95の場合

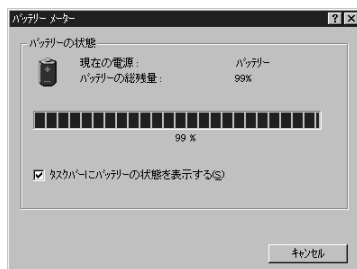
バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

- ・ Windowsのタスクトレイにある 🔋 の上にマウスポインタを合わせる



この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリーの残量により異なります。

- ・ タスクトレイの 🔋 をダブルクリックして、表示された「バッテリーメーター」ウィンドウを見る



- ・「コントロールパネル」を開き、「パワーマネージメント」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源のプロパティ」ウィンドウを見る



ACコンセントから電源を供給しているときは、はに変わります。

-  **チェック!!** フル充電されている状態では、バッテリー残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーは使用しているうちに、徐々に画面に表示されている残量と実際の残量にずれが生じることがあります。次のようなときは、「バッテリーリフレッシュ」を実行すると、残量表示のずれを解消できます。

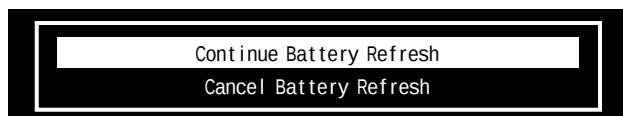
- ・購入直後や長期間、バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下した
- ・バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーの充電が完了し、バッテリー充電ランプ()が消えてしばらくしても、バッテリーの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリーの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

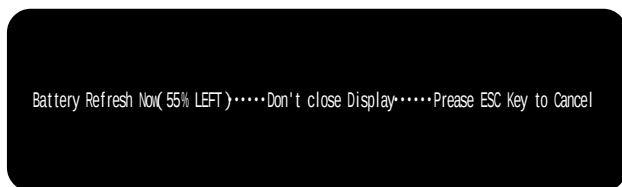
バッテリーリフレッシュの実行

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 バッテリパックをすでに取り付けている場合は、一度バッテリパックを本体から取り外して、再度取り付ける
バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける(→p.64)
- 4 本機の電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 5 【↑】または【↓】で「バッテリリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す
- 6 「バッテリリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示されます。



- 7 【↑】または【↓】で「Continue Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。



- ✓ **チェック!!** ・ バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ピピピと警告音がなります。
- ・ バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリー使用時フル充電状態で約50分、バッテリー残量10%(Windowsでバッテリー残量少の警告が表示される程度)の状態で約5分です。

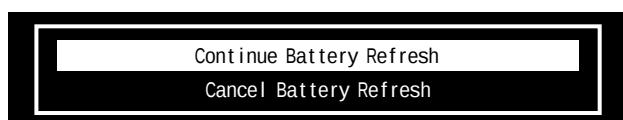
バッテリーフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

- 8** バッテリーフレッシュが終了して本機の電源が切れたら、ACアダプタを接続する
 バッテリーの充電がはじまるので、完全に充電されてバッテリー充電ランプ（）が消えるまでお待ちください。

バッテリーフレッシュを中断する

バッテリーフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

- 1** 【Esc】を押す
 次のようなメッセージが表示されます。



- 2** 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す
 本機が再起動します。

バッテリーフレッシュ中に本機の電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーフレッシュを続ける場合は「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリーフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリーパックの交換

交換の目安

フル充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）で利用できる時間が短くなったら、バッテリーフレッシュ（→p.61）を行ってください。それでも利用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

本機のバッテリースロットに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

・ PC-VP-BP09(バッテリパック(M))

・ PC-VP-BP10(バッテリパック(L))

バッテリスロットのバッテリパックと併用できるセカンドバッテリーに次のものがあります。

・ PC-VP-BP11(セカンドバッテリー(LL))

バッテリパックの交換のしかた

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

- 使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



チェック!! ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。

- ・ スタンバイ状態(サスペンド)のときにバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ ④ が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

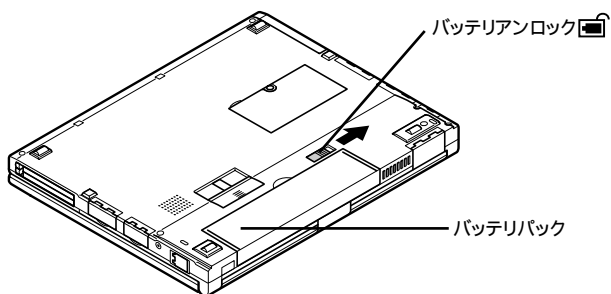
■ バッテリパック(M)モデルの場合

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

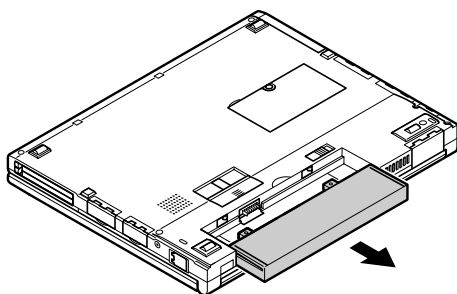
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

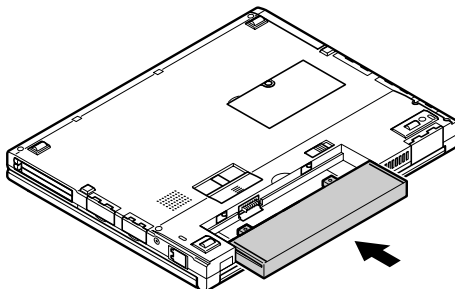
4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック () を矢印の方向にスライドさせる
スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。



5 バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせる
バッテリーパックが外れます。

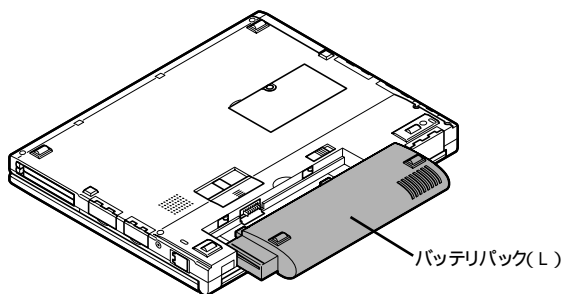


6 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる



■ バッテリーパック(L)モデルの場合

取り付け / 取り外しの方法は、バッテリーパック(M)の場合と同じです。



参照 バッテリーパック(L)の取り付け / 取り外し → このPARTの「バッテリーパックの交換」(p.63)

バッテリー容量を増やす

バッテリースロットに取り付けたバッテリーと併用できる、セカンドバッテリーを接続することができます。

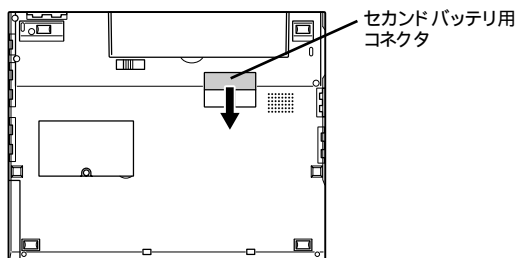
セカンドバッテリー(LL)(PC-VP-BP11)

本体底面に取り付けるバッテリーパックです。バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用することができます。

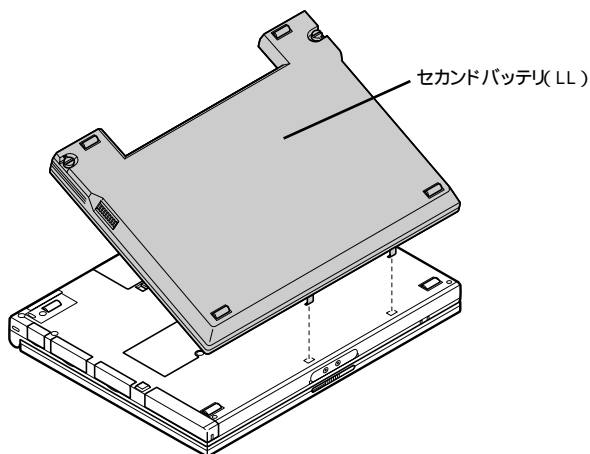
セカンドバッテリー(LL)の取り付け

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをこのパソコンから取り外す

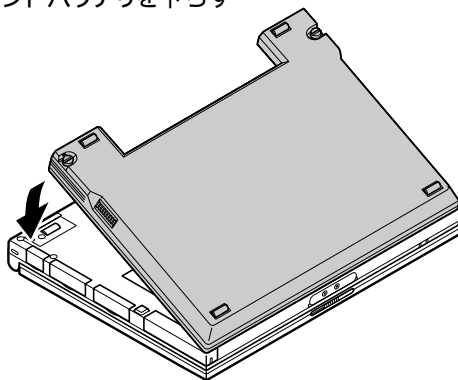
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて本機を裏返し、本体底面にあるセカンドバッテリー用コネクタのフタを開ける



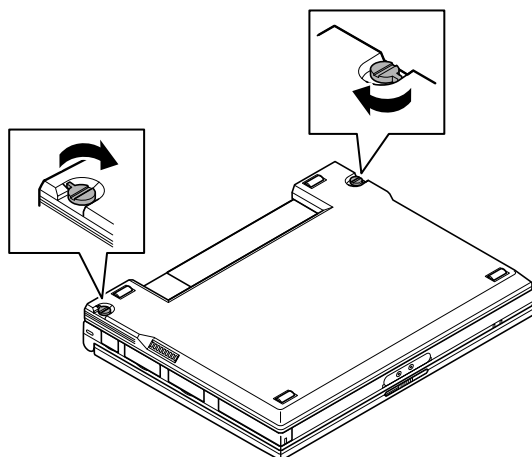
- 4** セカンドバッテリーについているツメを本体にある穴に引っかける



- 5** セカンドバッテリーのツメが本体の穴から外れないように、静かにセカンドバッテリーを下ろす



- 6** セカンドバッテリー底面にある2つのバッテリーロック / バッテリーアンロックのくぼみに硬貨を入れ、バッテリーロックの方に回す(矢印の方向に約90度回す)

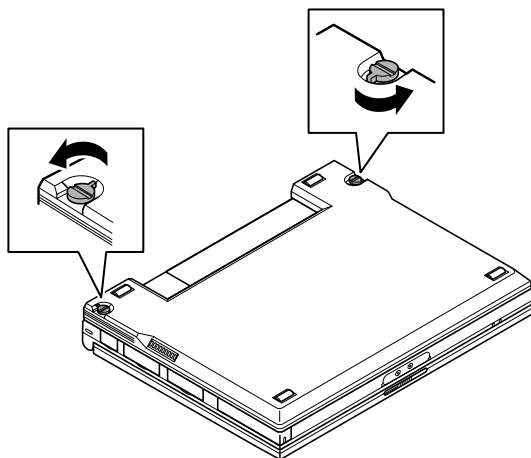


- チェック!!** ・本体とセカンドバッテリーが離れているとバッテリーロックできない場合があります。本体とセカンドバッテリーを軽く手で押さえながら、まわしてください。
- ・バッテリーロック / バッテリーアンロックの際、つめをたてないでください。つめを傷つけてしまう場合があります。

セカンドバッテリー(LL)の取り外し

- 1** 本機の電源を切る
- 2** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

- 3** 2つのバッテリーロック / バッテリアンロックのくぼみに硬貨を入れ、バッテリーアンロックの方に回す(矢印の方向に約90度回す)



- 4** セカンドバッテリーを持ち上げて、本体と離す
- 5** 本体のセカンドバッテリー用コネクタのフタを閉じて、本機を元に戻す

参照 別売のバッテリーパック→このPARTの「バッテリーパックの交換」(p.63)

省電力機能(Windows 98の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」、「パワーマネジメント」の機能があります。また、「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 スタンバイ状態を利用する→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.71)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windows 98を起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 休止状態を利用する→「休止状態(ハイバネーション)」(p.74)

パワーマネージメント

バッテリー駆動時などに、無駄な電力の消費を抑える機能です。BIOSセットアップメニューで設定するパワーマネージメントと、Windows 98のコントロールパネルで設定するパワーマネージメントの2種類があります。

参照 ▶ パワーマネージメントを利用する → 「パワーマネージメント」(p. 79)

スタンバイ状態(サスペンド)

スタンバイ状態にする前に

スタンバイ状態(サスペンド)を利用できないとき

次のようなときには、本機をスタンバイ状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・ プリンタへ出力中
- ・ 赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・ 通信用アプリケーションを実行中
- ・ 電話回線を使って通信中
- ・ 音声または動画を再生中
- ・ CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
- ・ システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・ Windowsの起動 / 終了処理中
- ・ スタンバイ状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ スタンバイ状態に対応していないIPCカードやUSB対応機器を使用中

スタンバイ状態のときの注意

本機がスタンバイ状態のときは、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーの残量がなくなると、自動的に休止状態になります。休止状態への移行中は、本機に衝撃や振動を加えないでください。故障やデータ消失の原因となります。また、バッテリーのみで本機を使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・ スタンバイ状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ スタンバイ状態のときに、PCカードやUSB機器を入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

スタンバイ状態にする

次のいずれかの方法で、本機をスタンバイ状態にすることができます。
スタンバイ状態になると、電源ランプ④が緑色に点滅します。

- ・ Windowsの「スタート」メニュー→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- ・ 【Fn】+【F4】を押す

上記の手順でスタンバイ状態にできるのは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「スリープ種別(Suspend Option)」を「サスペンド(Suspend)」に設定してある場合です。工場出荷時、本機は「サスペンド(Suspend)」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

- ・ 【Fn】+【Esc】を押す

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でスタンバイ状態にできます。

スタンバイ状態にする方法	設定方法
自動	「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」→「電源設定」の「システムスタンバイ」で設定
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「LCDパネル連動スリープ(LCD Suspend)」を「使用する(Enabled)」に設定
電源スイッチをスライドする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」→「システムスイッチ切り替え(System Switch)」を「スリープボタン(Sleep Button)」に設定

ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。

「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を☒にしていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を☐にしてください。

スタンバイ状態から復帰するときの注意

本機をスタンバイ状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態にしてからすぐに復帰させたいときは、本機に負担がかからないようスタンバイ状態になって約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- ・スタンバイからの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力します。



パスワード設定時のスタンバイからの復帰 → このPARTの「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.97)

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

- ・電源スイッチをスライドする
- ・ディスプレイを開く

次の設定を行うことにより、リモートで復帰させたり、時刻を指定して自動で復帰させることもできます。

レジュームする方法	設定方法
リモート電源制御	BIOS セットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「リモート電源制御 (Remote Power On)」を「使用する (Enabled)」に設定
時刻指定によるレジューム	Windows 98の「タスクスケジューラ」を使う

「タスクスケジューラ」については、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック!! LAN内蔵モデルでは、本機をバッテリーで使用时、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「リモート電源制御 (Remote Power On)」を「使用しない (Disable)」に設定すると、スタンバイ (サスペンド) 保持時間をのばすことができます。

休止状態(ハイバネーション)

休止状態にする前に

休止状態を利用できないとき

次のようなときには、本機を休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、休止状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・プリンタへ出力中
- ・赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
- ・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中
- ・休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・休止状態に対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中

休止状態のときの注意

本機が休止状態のときは、次のことに注意してください。

- ・休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、休止状態から正しく復帰できなくなることがあります。

休止状態にする

本機を休止状態にするには、次の方法で行います。

- ・【Fn】を押したまま電源スイッチをスライドする
「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

休止状態になると、電源ランプ④が消灯し、本機の電源が切れます。

ほかにも、本機を休止状態にするには次のような方法がありますが、それぞれの方法で休止状態にできるようにするためには設定が必要です。

休止状態にする方法	設定方法
自動	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」→「電源設定」の「システムスタンバイ」で設定
Windows の「スタート」メニュー→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定
【Fn】+【F4】を押す	
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」で以下を設定 「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「LCDパネル連動スリープ (LCD Suspend)」を「使用する (Enabled)」に設定
電源スイッチをスライドする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」で以下を設定 「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「システムスイッチ切り替え (System Switch)」を「スリープボタン (Sleep Button)」に設定

- ・ ATAカードをセットした状態でスリープ状態にすると、時間がかかる場合があります。
- ・ 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を☒にしていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を☐にしてください。

休止状態から復帰するときの注意

本機を休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・ 休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、本機に負担がかからないよう、休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・ 休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDを入れたまま休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。

- ・ 休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力します。

参照 パスワード設定時のスリープからの復帰→このPARTの「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.97)

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

- ・ 電源スイッチをスライドする

「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

休止状態の設定の解除と再設定

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、工場出荷時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け / 取り外しを行った / CDドライブの圧縮 / 圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する
HIBEROFF【Enter】

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ (⏻) をスライドさせて本機の電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
再起動後、BIOSセットアップメニューでハイバネーションに
関する設定を確認してください。

メッセージが表示されない場合は、次のように入力します。

CD C:¥NECUTILS¥HDPREP【Enter】
HIBERON【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。

休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。

☑ **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示される場合があります（お使いの機器のメモリ容量によって異なります）。ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ (⏻) をスライドさせて本機の電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
実際にハイバネーション機能を使用するには、BIOSセットアップ
メニューでの設定が必要です。

メッセージが表示されない場合は、次のように入力します。

CD C:¥NECUTILS¥HDPREP【Enter】

HIBERON【Enter】

すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

パワーマネージメント

省電力(節電)機能

節電のモードを切り替える

節電のモードの設定や切り替えは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「省電力レベルの設定(Power Savings Level)」で行います。

また、設定したモードは【Fn】+【F5】を押すごとに切り替えることもでき、キーボードを使って切り替えた場合は、切り替えるごとにモードを識別するピープ音が鳴ります。

【Fn】を押したまま【F6】を押してピープ音を「オフ」に設定していると、モード識別のピープ音が鳴りません。ピープ音がオフになっているときは、もう一度【Fn】+【F6】を押してピープ音が鳴るように設定してください。

本機で設定できるモードには次のようなモードがあります。

モード	機能	ピープ音の回数
オフ(Off)	すべてのBIOSによる省電力機能が無効になります。	1
ユーザ設定(Custom)	節電する機能を自分で選ぶことができます。どの機能を使うかは、BIOSセットアップメニューで設定します。	2
性能優先(High Perform)	本機の性能を最優先した省電力設定になります。節電効果はやや低めです。	3
最大省電力(Longest Life)	本機の動作時間を優先した省電力設定になります。性能を抑えることにより節電効果を高めたいときに選びます。	4

:ご購入時の設定(バッテリー駆動時のみ有効)

パワーマネージメントは、バッテリー駆動時に有効になります。ACコンセントから電源を供給しているときにパワーマネージメントを使いたい場合は、BIOSセットアップメニューで「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「AC電源駆動時の省電力(Power Management Under AC)」を「オン(On)」に設定してください。

参照 AC電源使用時に省電力を有効にする→PART3の「省電力セットアップ(Power Management Setup)」(p.184)

電源の管理のモード

コントロールパネルの「電源の管理」の機能を使うと、あらかじめ設定されている電源の状態を選ぶことができます。工場出荷時には、「常にオン」「ホーム/オフィスデスク」「ポータブル/ラップトップ」の3つのモードが設定されています。それぞれのモードの設定内容は、「電源設定」タブで確認することができます。

新しいモードを設定する

パソコンの利用形態に合わせて、好みの電源状態を新たに登録することができます。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「電源設定」タブをクリックする
- 3** 「システムスタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する
- 4** 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 5** 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。

電源管理のモード

本機には次の2種類の電源管理モードがあります。

APM モード

APMとは、「Advanced Power Management」の略で、パソコンや周辺機器の電源管理をBIOSで行うモードのことです。ご購入時は、APMモードに設定されています。

ACPI モード

ACPIとは、「Advanced Configuration and Power Interface」の略で、パソコンや周辺機器の電源管理、または周辺機器の管理をWindows 98で行うモードです。

電源管理モードを切り替えるには

工場出荷時の設定はAPMモードに設定されています。ACPIモードは、APMモードに比べて制限や注意事項があります。特に必要でなければ、APMモードで使用することをおすすめします。

電源管理モードをACPIモードに切り替えたい場合は、制限事項や注意事項をよくお読みください。

参照 電源管理モードを切り替える → PART4の「Windows 98のACPIモードについて」(p.196)

チェック!! ・ APMモードからACPIモードへの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみ可能です。

・ ACPIモードからAPMモードへ戻す場合は、本機を再セットアップしてください。

参照 再セットアップ → 『活用ガイド 再セットアップ編』

省電力機能(Windows 95の場合)

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイモード」、「サスペンド」、「ハイバネーション」、「パワーマネージメント」の機能があります。また、「サスペンド」と「ハイバネーション」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

スタンバイモード

液晶ディスプレイのバックライトをオフにするなど、電力消費の多い部分を節電する機能です。キーボードやポインティングデバイスを使用するとすぐにもとの状態に戻るため、作業中に少しだけ席を外す場合などに手軽利用できます。

参照 スタンバイモードを利用する→「スタンバイモード」(p.83)

サスペンド

作業中のデータを一時的にメモリに保存して、消費電力を抑える機能です。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「レジューム」と呼びます。

参照 サスペンドを利用する→「サスペンド」(p.83)

ハイバネーション

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「レジューム」と呼びます。データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 ハイバネーションを利用する→「ハイバネーション」(p.87)

パワーマネージメント

バッテリー駆動時などに、無駄な電力の消費を抑える機能です。BIOSセットアップメニューで設定します。

参照▶ パワーマネージメントを利用する→「パワーマネージメント」(p.93)

スタンバイモード

スタンバイモードにする

- ・【Fn】+【F4】を押す

スタンバイモードになると、画面の表示が消えます。

元の状態に戻す

- ・キーボードやポインティングデバイスを使う

サスペンド

サスペンドにする前に

サスペンドを利用できないとき

次のようなときにはサスペンドにしないでください。本機が正常に動かなくなったり、サスペンドから正しくレジュームできなくなることがあります。

- ・ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・プリンタへ出力中
- ・赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
- ・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中
- ・サスペンドに対応していないアプリケーションを使用中
- ・サスペンドに対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中
- ・ATAカード上のファイルを開いているとき

サスペンド状態のときの注意

本機がサスペンド状態のときは、次のことに注意してください。

- ・サスペンドへの移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・サスペンド状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、正しくレジュームできなくなることがあります。
- ・サスペンド状態のときにバッテリーの残量がなくなると、自動的にハイバネーションになります。ハイバネーションへの移行中は、本機に衝撃や振動を加えないでください。故障やデータ消失の原因となります。また、バッテリーのみで本機を使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・CardBus対応PCカードと通常のPCカード(PCMCIA2.1/ JEIDA4.2)を同時に使用しているときに、サスペンドを行う場合は、いったん、PCカードを抜いておいてください。レジュームが完了してから、再度カードをセットしてください。
- ・動画再生または音楽再生する際は、BIOSセットアップメニューで「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「省電力レベルの設定(Power Savings Level)」の設定を「ユーザ設定(Custom)」にし、「自動スタンバイタイムアウト(Standby Time-out)」および「自動スリープタイムアウト(Auto Suspend Time Out)」を「オフ(Off)」にしてください。

サスペンドにできるように設定する

サスペンドにできるようにするためには、次の設定を行ってください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「パワーマネージメント」アイコンをダブルクリックする
「電源のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「パワーマネージメント」タブをクリックする
- 3** 「Windowsでコンピュータの電源管理する」を ☒ にする

サスペンドにする

次のいずれかの方法で、本機をサスペンドにすることができます。
サスペンドになると、電源ランプ④が緑色に点滅します。

- ・ Windowsの「スタート」メニュー→「サスペンド」をクリックする
- ・ 【Fn】+【Esc】を押す

サスペンドにできるのは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「スリープ種別 (Suspend Option)」を「サスペンド (Suspend)」に設定してある場合です。工場出荷時、本機は「サスペンド (Suspend)」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でサスペンドにできます。

次の設定を行うときは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「スリープ種別 (Suspend Option)」を「サスペンド (Suspend)」に設定しておいてください。工場出荷時、本機は「サスペンド (Suspend)」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

サスペンドにする方法	設定方法
自動	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「省電力レベルの設定 (Power Savings Level)」を「オフ (Off)」以外に設定しておく
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「LCDパネル連動スリープ (LCD Suspend)」を「使用する (Enabled)」に設定
電源スイッチをスライドする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「システムスイッチ切り替え (System Switch)」を「スリープボタン (Sleep Button)」に設定

「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を☒にしていると、自動的にサスペンドにできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を☐にしてください。

サスペンドからレジュームするときの注意

本機をサスペンドからレジュームするときには、次のことに注意してください。

- ・ サスペンドにしてからすぐにレジュームしたいときは、本機に負担がかからないよう サスペンド状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・ サスペンド状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままサスペンドにした場合、レジュームに時間がかかることがあります。
- ・ レジューム時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力します。

参照 パスワード設定時のレジューム → 「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.97)

レジュームする

レジュームは次の方法で行うことができます。

- ・ 電源スイッチをスライドする
- ・ ディスプレイを開く

レジュームすると、元の状態(サスペンドに入る前)の画面が表示されます。次の設定を行うことにより、リモートでレジュームさせたり、時刻を指定して自動でレジュームさせることもできます。

レジュームする方法	設定方法
リモート電源制御	BIOS セットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「リモート電源制御 (Remote Power On)」を「使用する (Enabled)」に設定
時刻指定によるレジューム	BIOS セットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「時刻指定によるレジューム (Wake Up Alarm)」を「使用する (Enabled)」に設定 「レジューム時刻 (Resume Alarm Time)」で時刻を設定

チェック!! LAN内蔵モデルでは、本機をバッテリーで使用时、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「リモート電源制御 (Remote Power On)」を「使用しない (Disable)」に設定すると、スタンバイ(サスペンド)保持時間をのばすことができます。

ハイバネーション

ハイバネーションにする前に

ハイバネーションを利用できないとき

次のようなときには、ハイバネーションにしないでください。本機が正常に動かなくなったり、ハイバネーションから正しくレジュームできなくなることがあります。

- ・ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・プリンタへ出力中
- ・赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・CD-ROMやフロッピーディスクなどの媒体やハードディスクにアクセス中
- ・システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動 / 終了処理中
- ・ハイバネーションに対応していないアプリケーションを使用中
- ・ハイバネーションに対応していないPCカードやUSB対応機器を使用中
- ・ATAカード上のファイルを開いているとき

ハイバネーションのときの注意

本機がハイバネーションのときは、次のことに注意してください。

- ・ハイバネーションへの移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ハイバネーションのときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、ハイバネーションから正しくレジュームできなくなることがあります。
- ・ハイバネーションへの移行中は、本機に衝撃や振動を加えないでください。故障やデータ消失の原因となります。また、バッテリーのみで本機を使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・CardBus対応PCカードと通常のPCカード(PCMCIA2.1 / JEIDA4.2)を同時に使用しているときにハイバネーションにする場合は、いったん、PCカードを抜いておいてください。レジュームが完了してから、再度PCカードをセットしてください。

ハイバネーションにできるように設定する

ハイバネーションにできるようにするためには、次の設定を行ってください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「パワーマネジメント」アイコンをダブルクリックする
「電源のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「パワーマネジメント」タブをクリックする
- 3** 「Windowsでコンピュータの電源管理する」を☒にする

ハイバネーションにする

本機をハイバネーションにするには、次の方法で行います。

- ・【Fn】を押したまま電源スイッチをスライドする

「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ハイバネーションになると、電源ランプ④が消灯し、本機の電源が切れます。

ほかにも、本機をハイバネーションにするには次のような方法がありますが、それぞれの方法でハイバネーションにできるようにするためには設定が必要です。

ハイバネーションにする方法	設定方法
自動	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」で以下を設定 「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「省電力レベルの設定 (Power Savings Level)」を「オス Off)」以外に設定
Windowsの「スタート」メニュー →「サスペンド」をクリックする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」→「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」で以下を設定 「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「LCDパネル連動スリープ (LCD Suspend)」を「使用する (Enabled)」に設定
電源スイッチをスライドする	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ (Power Management Setup)」で以下を設定 「スリープ種別 (Suspend Option)」を「ハイバネーション (STF)」に設定 「システムスイッチ切り替え (System Switch)」を「スリープボタン (Sleep Button)」に設定

「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を☒にしていると、自動的にハイバネーションにできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を☐にしてください。

レジュームするときの注意

本機をハイバネーションからレジュームするときには、次のことに注意してください。

- ・ハイバネーションにしてからすぐにレジュームしたいときは、本機に負担がかからないよう、ハイバネーションになった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・ハイバネーションのときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常にレジュームできなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブにフォトCDを入れたままハイバネーションにした場合、レジュームに時間がかかることがあります。

- ・ レジューム時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力します。

参照 パスワード設定時のレジューム→このPARTの「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.97)

ハイバネーションからレジュームする

ハイバネーションからのレジュームは次の方法で行います。

- ・ 電源スイッチをスライドする

「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、レジュームが完了すると、元の状態(ハイバネーションに入る前)の画面が表示されます。

ハイバネーションの設定の解除と再設定

ハイバネーション中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存しています。このファイルのことを「ハイバネーション用ファイル」と呼び、工場出荷時には、すでに作成された状態になっています。このハイバネーション用ファイルをいったん削除することを「ハイバネーションの設定の解除」と呼び、メモリの取り付け / 取り外しを行った、CDドライブの圧縮 / 圧縮解除を行ったとき、またはCDドライブにドライブコンバータ (FAT32) を実行したときには、この「ハイバネーションの設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再びハイバネーションを利用したいときは、「ハイバネーションの再設定」でハイバネーション用ファイルを作成する必要があります。

ハイバネーションの設定を解除する

ハイバネーションの設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。

チェック!! 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOS プロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する
HIBEROFF【Enter】

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)をスライドさせて本機の電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
再起動後、BIOSセットアップメニューでハイバネーションに
関する設定を確認してください。

すでにハイバネーションの機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

これでハイバネーションの機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、ハイバネーションの設定を解除することができました。

ハイバネーションを再設定する

ハイバネーションの設定を解除したときや、ハイバネーション用ファイルを削除してしまったときは、ハイバネーションの再設定を行ってください。

 **チェック!!** 「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ

2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

3 次のように入力する

HIBERON【Enter】

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。

ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、本機に搭載されているメモリ容量 + 8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)をスライドさせて本機の電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
実際にハイバネーション機能を使用するには、BIOSセットアップ
メニューでの設定が必要です。

すでにハイバネーションの機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

5 5秒以上待ってから、本機の電源を入れる

パワーマネージメント

省電力(節電)機能

節電のモードを切り替える

節電のモードの設定や切り替えは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「省電力レベルの設定(Power Savings Level)」で行います。

また、設定したモードは【Fn】+【F5】を押すごとに切り替えることもでき、キーボードを使って切り替えた場合は、切り替えるごとにモードを識別するピープ音が鳴ります。

【Fn】を押したまま【F6】を押してピープ音を「オフ」に設定していると、モード識別のピープ音が鳴りません。ピープ音がオフになっているときは、もう一度【Fn】+【F6】を押してピープ音が鳴るように設定してください。

本機で設定できるモードには次のようなモードがあります。

モード	機能	ピープ音の回数
オフ(Off)	すべてのBIOSによる省電力機能が無効になります。	1
ユーザ設定 (Custom)	節電する機能を自分で選ぶことができます。どの機能を使うかは、BIOSセットアップメニューで設定します。	2
性能優先 (High Perform)	本機の性能を最優先した省電力設定になります。節電効果はやや低めです。	3
最大省電力 (Longest Life)	本機の動作時間を優先した省電力設定になります。性能を抑えることにより節電効果を高めたいときに選びます。	4

：ご購入時の設定(バッテリー駆動時のみ有効)

パワーマネージメントは、バッテリー駆動時に有効になります。ACコンセントから電源を供給しているときにパワーマネージメントを使いたい場合は、BIOSセットアップメニューで「省電力セットアップ(Power Management Setup)」の「AC電源駆動時の省電力(Power Management Under AC)」を「オン(On)」に設定してください。

参照 AC電源使用時に省電力を有効にする→PART3の「省電力セットアップ」(p.184)

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- ・ パスワード
- ・ ハードディスクのパスワード
- ・ スマートカード / 指紋認証ユニット(別売)

 **チェック!!** セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ 本機の起動
- ・ BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- ・ スリープ状態からの復帰

 **チェック!!** ご購入元、Bit-INN、NECサービスセンター、サービスステーションに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、スーパーバイザパスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパーバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、本機を起動することもできません。

パスワードを設定 / 変更する

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したスーパーバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→ p.177)

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで、
【Enter】を押す

3 「スーパーバイザパスワードの設定(Change Supervisor Password)」または「ユーザパスワードの設定(Change User Password)」を選んで、【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

 **チェック!!** スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力する

 **チェック!!** パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字 / 小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

5 【Enter】を押す

6 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力する

7 【Enter】を押す

8 「何かキーを押して下さい」と表示されるので、いずれかのキーを押す

9 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

 **チェック!** 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

パスワードの入力タイミング	設定方法
本機の起動時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「起動時のパスワード(Boot Password Required)」を「はい(Yes)」に設定
スリープからの復帰時	BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」→「レジューム時のパスワード(Resume Password Required)」を「はい(Yes)」に設定

「起動時のパスワード」を「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定の変更はできません。

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」の「起動時のパスワード(Boot Password Required)」が「はい(Yes)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 本機の電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

Enter CURRENT Password: _

- 2 設定されているパスワードを入力する

- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

-  **チェック!!** ・ 誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチをスライドさせて電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ (System Security Setup)」の「レジューム時のパスワード (Resume Password Required)」が「はい (Yes)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 電源スイッチをスライドする
キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

- 2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。



チェック!!

- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

パスワードが設定されているときにキーボードロックを設定すると、パスワードを入力しないかぎりキーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを設定する

1

【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】を押す

キャップスロックキーランプ() とスクロールロックキーランプ() が交互に点灯します。

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

1

設定されているパスワードをキーボードから入力する

2

【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力は可能になります。



チェック!!

- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 解除処置について→『活用ガイド ソフトウェア編』の「PART5 トラブル解決 Q & A」

ハードディスクのパスワード

ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。

パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定されます。

✓チェック!! ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、そのハードディスクは永久に使えなくなるため、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないように、十分注意してください。

パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

✓チェック!! マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。

パスワードを設定 / 変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。



チェック!! マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.177)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 2** 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで
【Enter】を押す
- 3** 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す
 - ・初回設定時はマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ
 - ・マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合は、新しい入力画面が表示されます。→手順7へ
 - ・上記以外の場合は、パスワード入力画面が表示されます。→手順4へ
- 4** マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す
 - ・ユーザパスワードを既に設定済みで、ユーザパスワードを入力した場合は、新しいユーザパスワード入力画面が表示されます。→手順7へ
 - ・マスタパスワードを入力した場合は、新しいマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ
- 5** 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す
- 6** 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す
ユーザパスワード入力画面が表示されます。
- 7** 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す
- 8** 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す
- 9** 「何かキーを押してください」と表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

-  **チェック!!** ・ 設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ ユーザパスワード変更時には、すでに設定されたユーザパスワードの入力画面が表示されます。その場合は設定したユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力してください。

ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」で「内蔵HDDパスワード設定」を「使用する」に設定してください。

「使用しない」に設定するとハードディスクのセキュリティを無効にできます。

ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。

-  **チェック!!** 本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワード」を「使用しない」に設定してください。

ハードディスクのセキュリティを無効(使用しない)にしても本機にハードディスクパスワードが設定されています。ハードディスクパスワードを無効にするには、次の「ハードディスクのパスワードを無効にする」をご覧ください。

ハードディスクのパスワードを無効にする

ハードディスクのパスワードを無効にする場合は、次の手順でハードディスクのパスワードを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.177)

BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで
【Enter】を押す
パスワードの入力画面が表示されます。

4 ユーザパスワードまたはマスタパスワードを入力し【Enter】を押す
・ ユーザパスワードを入力した場合は、新しいユーザパスワード入力画面が表示されます。→手順7へ
・ マスタパスワードを入力した場合は、新しいマスタパスワード入力画面が表示されます。→手順5へ

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す
ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 何も入力せず【Enter】を押す

以上でハードディスクのパスワードが無効になります。

ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.177)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティセットアップ(System Security Setup)」を選んで
【Enter】を押す

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す
マスタパスワードの画面が表示されます。

4 マスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワードの設定 / 変更の手順にしたがってユーザパスワードの設定を行うか、または【Esc】を押してキャンセルしてください。

スマートカード / 指紋認証ユニット

別売のセキュリティ関連拡張機器を利用して個人認証を行うことにより、本機の利用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機ではスマートカードによる個人認証、および指紋による個人認証に対応しています。

 **チェック!!** 「スマートカード」「指紋認証ユニット」「パスワード」はそれぞれ同時に使用することはできません。

参照 スマートカード / 指紋認証について → スマートカード発行ツール (PK-SM002V2 など) に添付のマニュアル、または PC カード用指紋認証ユニット (PK-FP001) に添付のマニュアル

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウィルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。「起動セクタへのウィルス感染防止」の設定は、BIOS セットアップメニューで行います。

参照 ハードディスクの起動セクタを保護する → PART 3 の「標準セットアップ」(p.179)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照 盗難防止用ロック → 「各部の名称」(p.16)

本機の盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は次のとおりです(1999年12月現在)

日本パラロイド株式会社 電子映像事業部

〒105-8456 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号 第30森ビル

Tel: 03-3438-8879 Fax: 03-5473-1630



赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線
でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通
信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行う前に

本機は出荷時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていま
せん。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。お使いのパ
ソコンにインストールされているOSによって手順が異なりますので、それぞ
れの手順に従って設定を行ってください。

■ Windows 98の場合

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.177)
- 2** 「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR
Serial Port)」を選ぶ
- 3** 「自動(Auto)」を選択する
- 4** BIOSセットアップメニューを終了する
ファイルのコピーが始まります。
バージョンの競合を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタン
をクリックしてください。
- 5** 「システム設定の変更」画面が表示されたら「はい」ボタンをク
リックする
本機が再起動します。
これで、赤外線通信をするための準備ができました。

赤外線モニタ

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行なう「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使い方については、「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニタ」のアイコンをダブルクリックし、ヘルプをご覧ください。

■Windows 95の場合

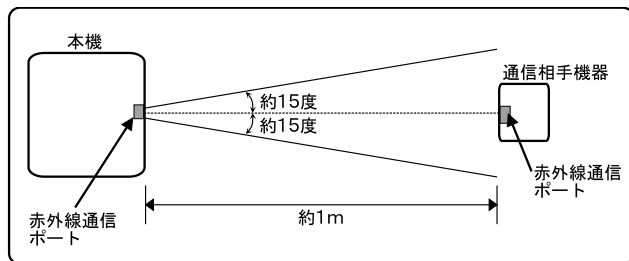
- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(→p.177)
- 2** 「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」の「赤外線ポート(IR Serial Port)」を選ぶ
- 3** 「自動(Auto)」を選択する
- 4** BIOSセットアップメニューを終了する
- 5** 画面の表示にしたがって、赤外線デバイスをインストールする
- 6** 「Intellisync」の「接続設定マネージャ」を起動し、設定を行う

赤外線モニター

Windows 95には、赤外線通信の設定や監視を行なう「赤外線モニター」というプログラムがあります。「赤外線モニター」の使い方については、「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニター」のアイコンをダブルクリックし、ヘルプをご覧ください。

機器の配置について

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。



- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

機器を配置するときの注意

- ・ 赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
- ・ 通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
- ・ 互いの機器どうしを接触させない



チェック!!

通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かないときや通信相手機器の通信可能距離が本機よりも短い(本機の場合は約1m以内)ときは、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

こんなときは通信可能距離が短くなってしまうことがあります

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていない
- ・ 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- ・ 本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えているとき

こんなときはうまく通信できないことがあります

- ・異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)
 - ・通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合
- 異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには、次の方法があります。

- ・「Intellisync」を使用する
- ・「ケーブル接続」を使用する(Windows 98のみ)
- ・「赤外線転送」を使用する(Windows 98のみ)

Intellisync

Intellisyncは、赤外線や通信ケーブルを使ってファイルの転送を行うツールです。

「Intellisync」の「接続設定マネージャ」を起動し設定を行ってください。

参照 Intellisyncの使いかた →『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intellisync」

ケーブル接続

「ケーブル接続」とは、通信ケーブルや赤外線で他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。

詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」でヘルプを開き、「目次」タブから「アクセサリを使う」→「通信」→「ケーブル接続」をご覧ください。

チェック!! 「ケーブル接続」で赤外線を使うときは、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションでサポートしているポート」の部分に表示されています。

赤外線転送

「赤外線転送」とは、Windows 98が起動している2台のパソコン間で、ファイルの転送を行う機能です。

「赤外線転送」を使ったファイルの転送には、次の3つの方法があります。

エクスプローラを使う

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 2** 送信するファイルを表示させる
- 3** 送信するファイルを選択し、右クリックする
- 4** 「送る」→「赤外線を受信側」をクリックする

ドラッグ&ドロップを使う

- 1** 「マイコンピュータ」をダブルクリックする
- 2** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 3** 送信するファイルを表示させる
- 4** 送信するファイルを選択し、「マイコンピュータ」の「赤外線を受信側」へドラッグ&ドロップする

マイコンピュータを使う

- 1** 「マイコンピュータ」をダブルクリックする
- 2** 「範囲内にある利用可能なデバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ
- 3** 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

 **チェック!!** 赤外線転送とIntellisyncは、同時に使用することはできません。

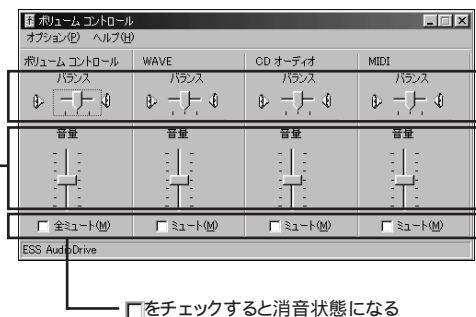
サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

■ Windows 98の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
ボリュームコントロールの画面が表示されます。

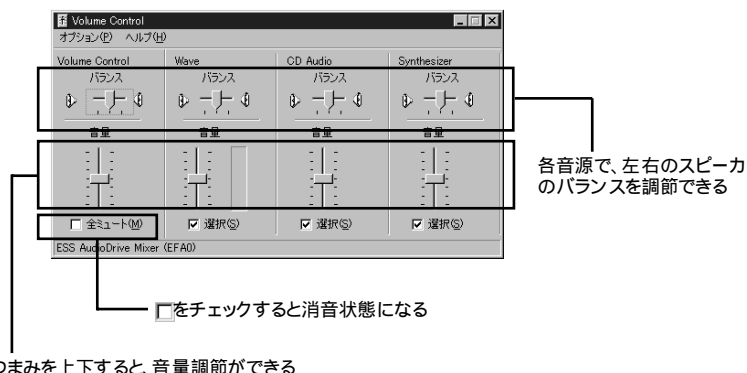


各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

つまみを上下すると、音量調節ができる

■ Windows 95の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」→「ボリュームコントロール」をクリックする
ボリュームコントロールの画面が表示されます。



つまみを上下すると、音量調節ができる

- ✓チェック!!** ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→ p.49)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
- なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」ウィンドウが開きます。
- 2 「音量の調整」から「再生」「録音」「その他」のどれかを選択する
表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

■ Windows 98の場合



■ Windows 95の場合



設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。

■ Windows 98の場合

項目名	音量調節の種類		機 能
	再生	録音	
ボリュームコントロール	○		再生する全ての音量を調整します。
Record Mixer		○	録音する全ての音量を調整します。
WAVE	○		WAVEデータなどのPCM音源の音量を調整します。
Phone	○		PHSからの音量を調整します。
IIS	○	○	ZVポートなどからの音量を調整します。
マイク	○	○	マイクロホンから入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
CDオーディオ	○	○	CDオーディオを再生または録音する音量を調整します。
MIDI	○	○	シンセサイザーの音量を調整します。

■ Windows 95の場合

項目名	音量調整の種類		機 能
	再生	録音	
Volume Control	○		再生する全ての音量を調整します。
Recording Control		○	録音する全ての音量を調整します。
Wave	○	○	WAVEデータなどのPCM音源の音量を調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
CD Audio	○	○	CDオーディオを再生または録音する音量を調整します。
Synthesizer	○	○	シンセサイザーの音量を調整します。
IIS	○		ZVポートなどからの音量を調整します。

「音量の調整」で「その他」を選択すると、横にあるプルダウンメニューから次のような項目が選択できます。



項 目	機 能	
Voice Commands	通常は使用しません。	
Phone	Mic	本機では使用できません。
	Phone	モデムの音量を調整します。

トーン調整で調整する

1 ボリュームコントロール画面に「Volume Control」または「ボリュームコントロール」項目が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする
ボリュームコントロール画面の「Volume Control」または「ボリュームコントロール」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。

2 「トーン」ボタンをクリックする
トーン調整画面が表示されます。



チェック!!

- ・本機では「その他の調整」のみ調整可能です。
- ・本機では「トーン調整」の低音、高音の調整はできません。

内蔵モデム

内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

- ・ モジュラージャック式

本機に付属のモジュラーケーブルで接続できます。

- ・ 3ピンプラグ式コンセント

市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

- ・ 直結配線方式

モジュラー式コンセントに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

✓チェック!! 内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続するとうまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

電話回線を接続する

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意

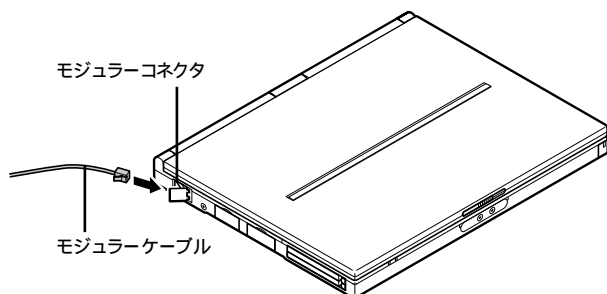


感電注意

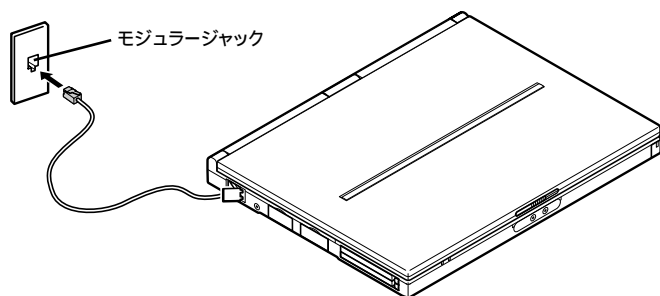
- モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

パソコンを電話回線に接続する

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す
- 4** 付属のモジュラーケーブルの一方を本機のモジュラーコネクタに接続する



- 5** モジュラーケーブルのもう一方を、壁などのモジュラージャックに接続する



1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

■ Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。



「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

この画面はモデルによって異なります。

■ Windows 95の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「モデムのプロパティ」ウィンドウ下段の「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックする

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

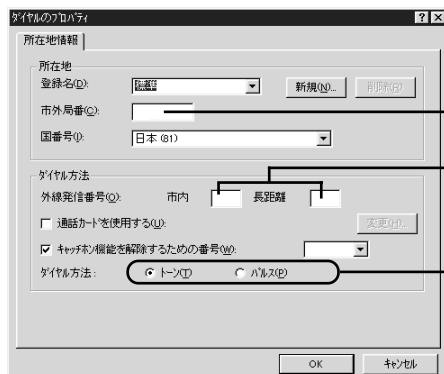
0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。



「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する

プッシュ回線を使用するときは「トーン」ダイヤル回線のときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

通信機能使用上の注意

- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTの請求書を確認するか、NTTにお問い合わせください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。
C: ¥WINDOWS¥ATCREAD.DOC
- ・本機に内蔵されているモデムは、海外で使用できません。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。



チェック!!

- ・インターネット設定切替ツールは、ご購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーション CD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、「活用ガイド ソフトウェア編」の「PART2 添付アプリケーションの追加と削除」をご覧ください。
- ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、本機の起動時にアイコン化してタスクトレイに常駐します。

- 1 タスクトレイのをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、またはをクリックして表示させてください。

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

インターネット設定切替ツールを終了するときは

- 1 タスクトレイのを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



- 2 「ボタン設定」タブをクリックする
- 3 「ダイヤルアップ」をにする
- 4 「追加」ボタンをクリックする
- 5 新しく登録する接続名を入力して、「OK」ボタンをクリックする
ここでは例として「出張先」という名前で登録します。
- 6 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「OK」ボタンをクリックする
「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

7 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする



8 「OK」ボタンをクリックする。 新しいダイヤルアップ情報「出張先」が登録されます。



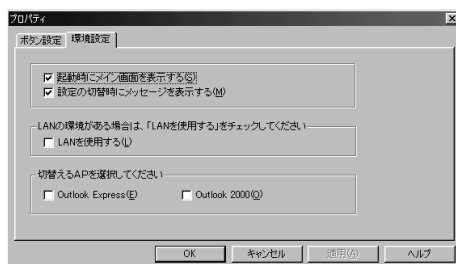
ダイヤルアップ接続の情報を修正する
登録した情報を修正したいときは、次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

LAN接続へ切り替えるための設定を行う
インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「環境設定」タブをクリックする



- 3 「LANを使用する」を☒にし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができますようになります。

接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを☒にする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」(→p.123)をご覧ください。

接続環境を切り替える

1 インターネット設定切替ツールを起動する



2 切り替える接続環境名をクリックする

または、タスクトレイのを右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックする

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



接続先の選択

設定を行いたい接続の種類(ダイヤルアップまたはLAN接続)をクリックしてにします。

接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左をにすると、メイン画面やタスクトレイからのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

ワイヤレス通信機能

ここでは、ワイヤレスモデルについての説明をしています。

本機に内蔵しているワイヤレス通信機能を使うと、別売のワイヤレスモデムステーションやワイヤレスターミナルアダプタステーションとの間でワイヤレスに通信を行うことができます。

ワイヤレス通信機能を使う

ワイヤレス通信は、親機と子機との間のデータ通信を無線（ワイヤレス）で行います。電話回線とケーブル接続している親機をターミナルとして、その親機から電波が届く範囲内であれば、子機はどこへ移動しても通信機能を利用できます。本機には、この子機としての機能が搭載されています。

ワイヤレス通信機能を使用するには

本機でワイヤレス通信を利用するためには、親機となる別売のワイヤレス機器が必要です。親機として利用できる機器には、次のようなものがあります。

- ・ワイヤレスモデムステーション(AtermWM56)
- ・ワイヤレスターミナルアダプタステーション(AtermIW60HS DSU、IW50/D)

本機でのワイヤレス通信で、上記の機器を親機として設定すると、デュアルリンクワイヤレス通信(Dualink Wireless Mode)が利用可能になります。デュアルリンクワイヤレス通信では、親機と子機の間で最大64kbpsの高速データ通信が可能になります。



チェック!! ワイヤレス通信機能を使用するには、親機との無線の増設登録(有料)が必要です。最寄りのNECサービスステーション、またはお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

⚠ 警告



- ・ 航空機内や病院内などのPHS端末の使用を禁止された区域では、本機やワイヤレス通信機器の電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因になります。
- ・ 植込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本機やワイヤレス通信機器をペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受けるおそれがあります。

電話回線に接続する

別売のワイヤレス通信機器(親機)に添付のマニュアルをご覧になって接続してください。

本機がワイヤレス機器(親機)と通信可能な圏内にあるか確認する

BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ(Peripheral Setup)」→「PIAFS使用時ランプ切り替え(Lamp Switch when PIAFS is used)」を「圏内(Area)」に設定すると、本機がワイヤレス通信機器と通信可能な圏内にあるかをメール着信ランプ()で確認することができます。

ランプ	状態
緑点灯	通信圏内
消灯	通信圏外

ワイヤレス通信機器を使用するときの注意

- ・ 本機とワイヤレス通信機器(親機)は、電波を用いて通信を行います。周囲の電波状況により、ワイヤレス通信機器の電波を受信できなかったり、正常に通信ができない場合がありますので、次の点に注意してください。
 - 本機とワイヤレス通信機器の通信距離は、見通し距離で約100m以内ですが、周囲の環境や建物の構造によっては通信距離が短くなります。
 - 本機とワイヤレス通信機器は、他の機器(電気機器、AV機器、OA機器、デジタルコードレス電話機、無線を使用するターミナルアダプタなど)を使用している環境では影響を受けやすいため、まれにワイヤレス通信機器の電波を受信できなかったり、通信ができない場合があります(メール着信ランプ()が消灯状態になります)。その場合は、数分待ってから通信を行ってください。それでも通信ができない場合は、他の機器から距離を離してください。

- 本機とワイヤレス通信機器の近くでは、無線を使用する機器(デジタルコードレス電話機、FAX、ターミナルアダプタ、ホームアンテナなど)を同時に4台以上使用しないでください。
- ・ワイヤレス通信機器と本機の距離が近すぎると、通話にノイズが入ったり、データ通信でエラーが発生する場合があります。
- ・アナログ回線の状態が悪い場合は、通信の途中で切断される可能性があります。
- ・ご利用の電話回線が「パルス」の場合でも、「ダイヤルのプロパティ」の「ダイヤル方法」は、「トーン」に設定してください。
- ・お使いの構内交換機によっては、外線発信番号のダイヤル間隔に対応できない場合があります。その場合は、外線発信番号の必要がない回線を使用してください。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合は、ATコマンドが必要です。

参照 ATコマンドについて→C:\WINDOWS\WIRELESS.DOC

ワイヤレス通信機能を活用する

親機(ワイヤレス通信機器)や、子機(ワイヤレス通信機能を搭載したパソコン)を新たに追加することで、さらにワイヤレス通信機能を活用することができます。

親機に子機を追加登録する

別売の親機には、子機を複数台登録することができます。また、親機に別売の子機としての機能を持つパソコンを追加登録すると、親機を介して子機どうしでワイヤレスにデータの転送が可能になります。

親機に子機を追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。最寄りのNECサービスステーション、または購入された販売店に相談してください。

参照 親機に子機を追加登録する→ワイヤレス通信機器のマニュアル

親機を増やす

複数の電話回線を利用できる環境にあるときは、親機を増やすことができます。このパソコンを子機として複数の親機に登録することができます。

利用できる親機には、次の機器があります。

- ・Aterm WM56
- ・Aterm IW60HS DSU
- ・Aterm IW50/D

本機を別売の親機に追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。最寄りのNECサービスステーション、または購入された販売店に相談してください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、このパソコンの通信設定を簡単に切り替えることができます。

参照 インターネット設定切替ツールの使い方→このPARTの「インターネットへの通信環境を切り替える」(p.119)

PHSインターフェイス

PHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

ここでの説明はPHSインターフェイスを搭載しているモデルの説明をしています。

PHSとの接続

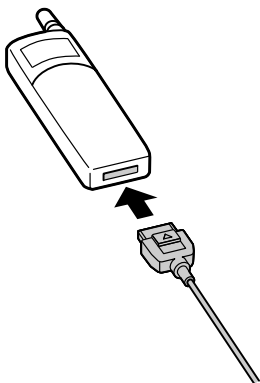
本機には、PHS接続ケーブルが添付されています。添付のケーブルを使ってNTT DoCoMoのPHSと接続できます。

本機のPHSインターフェイスにPHSを接続してインターネットや電子メールをご利用になるには、お使いになっているPHSと、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントがPIAFSに対応している必要があります。ご利用のプロバイダやパソコン通信会社にご確認ください。

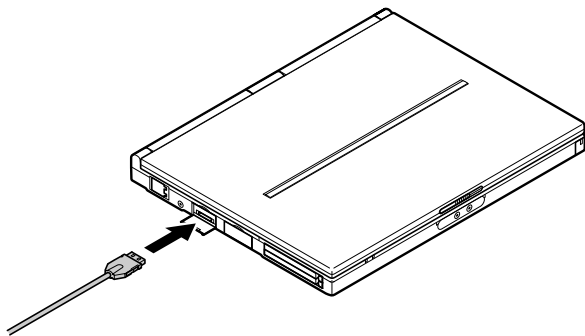
用語 PIAFS(ピアフ)

PHS Internet Access Forum Standardの略称で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントがPIAFSに対応していれば、PHSのデジタル通信回線(32kbps)を利用して、高速な通信を行うことができます。

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 接続ケーブルの小さいほうのコネクタを、PHS本体に接続するコネクタの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押しこんでください。



- 3** 本機の左側のPHSインターフェイスに、大きいほうのコネクタを接続する
コネクタの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



ダイヤル設定

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

■ Windows 98の場合

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「所在地情報」ウィンドウが開いた場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

PHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。



「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開いた場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する
PHSなど、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、「000」を入力する

内線電話から外線へ接続する場合には必ず入力する

「トーン」を選択する

■ Windows 95の場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「モデムのプロパティ」ウィンドウ下段の「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックする

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

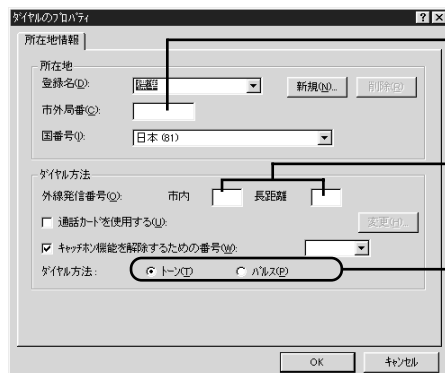
0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

必要な項目を確認して、設定してください。

PHSなど必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。



「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する
PHSなど、市外局番からダイヤルする必要がある場合は、「000」を入力する

内線電話から外線へ接続する場合には必ず入力する

「トーン」を選択する

PHSインターフェイス使用上のご注意

- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C: ¥WINDOWS¥PIAFS_ATC.DOC

ワイヤレスモデルでPHSインターフェイスを使用する場合、ATコマンドについては次のREADMEファイルをご覧ください。

C: ¥WINDOWS¥WIRELESS.DOC

- ・ハードウェア追加ウィザードを実行すると、コントロールパネルのモデムの項目に「標準のモデム」が表示されることがありますが故障ではありません。USBポートバー(別売)のシリアルインターフェイスに標準的な9600bps以下のモデムを接続しないお客様は、削除しても問題ありません。削除する場合は、以下の手順を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする

2 「標準のモデム」を選択し、「削除」ボタンをクリックする



LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでの説明はLANを内蔵しているモデルの説明をします。

LANへの接続

LANボードが内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のHUBを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

初めて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する際には、必ずカテゴリ5(CAT5)のケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する際には、カテゴリ3または5のケーブルを使用してください。

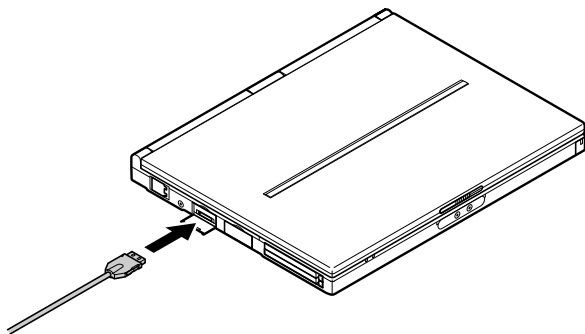
 **チェック!!** 本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定とリンクケーブルの接続を行ってください。

✓チェック!! 本機の電源が入っているときは、専用LANケーブルを抜き差ししないでください。

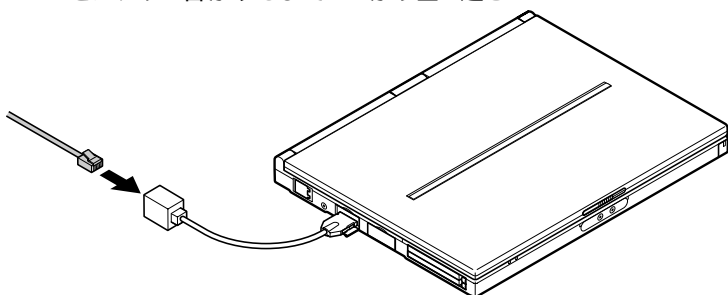
1

本機
の
機
能

- 1** 専用LANケーブルの平らな形をした一端を、本機のLANインターフェイスにカチッと音がするまで、しっかり差し込む



- 2** 本機に接続した専用LANケーブルの先に、リンクケーブルの一端をカチッと音がするまでしっかり差し込む



- 3** リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続作業をすることで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してネットワークの接続をやり直してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・ネットワーク(LAN)に接続しているときは、スリープ状態にしないでください。本機が正常に動かなくなることがあります。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

コマンドプロンプトに、次のコマンドを入力してください(ただし、TCP/IPプロトコルが必要です)。

Winipcfg.exe【Enter】

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作・保守を行うための機能があります。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更・削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする
- ・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)
- ・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する
- ・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する
- ・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる

このような手段・機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

クライアントモニタリング

「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。



『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「Intel® LANDesk® Client Manager 6.0 (with NEC Extensions)」

資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

状態監視

障害管理機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

リモートコントロール

離れたところにあるシステム管理者のマシンから本機を操作して、次の操作を行うことができます。

- ・ 本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ
- ・ ファイル転送
- ・ アプリケーションのインストール
- ・ アプリケーションの実行などの操作(アプリケーションによってはできないものがあります)

 **チェック!!** この操作を行うには、システム管理者のマシンに次のアプリケーション(別売)が必要です。

「DMIT00L Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)」

 **参照** 『活用ガイド ソフトウェア編』PART1の「pcANYWHERE 9.0 EX」

「DMIT00L Ver8.1(pcAnywhere™ 9.0 EX コンプリート版付)」に関する最新情報は、インターネットのホームページ「98Information」の「ソフトウェア」で提供しています。
<http://www.nec.co.jp/98/>

ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、つぎの操作を行うことができます。

 **チェック!!** この機能を使用するには、別途同一LAN上の管理者パソコンで、別売のESMPRO/ClientManager Ver3.1のRemote Install Managerが設定されている必要があります。

- ・ OSのセットアップ
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」ロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

 **チェック!!** お使いの機種によってはこの機能を利用できない場合があります。

P A R T

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

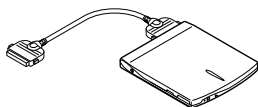
本体前面 / 右側面

ヘッドホン /
オーディオ出力端子

ヘッドホン



外付CD-ROMドライブ



外部マイクロホン端子

マイクロホン



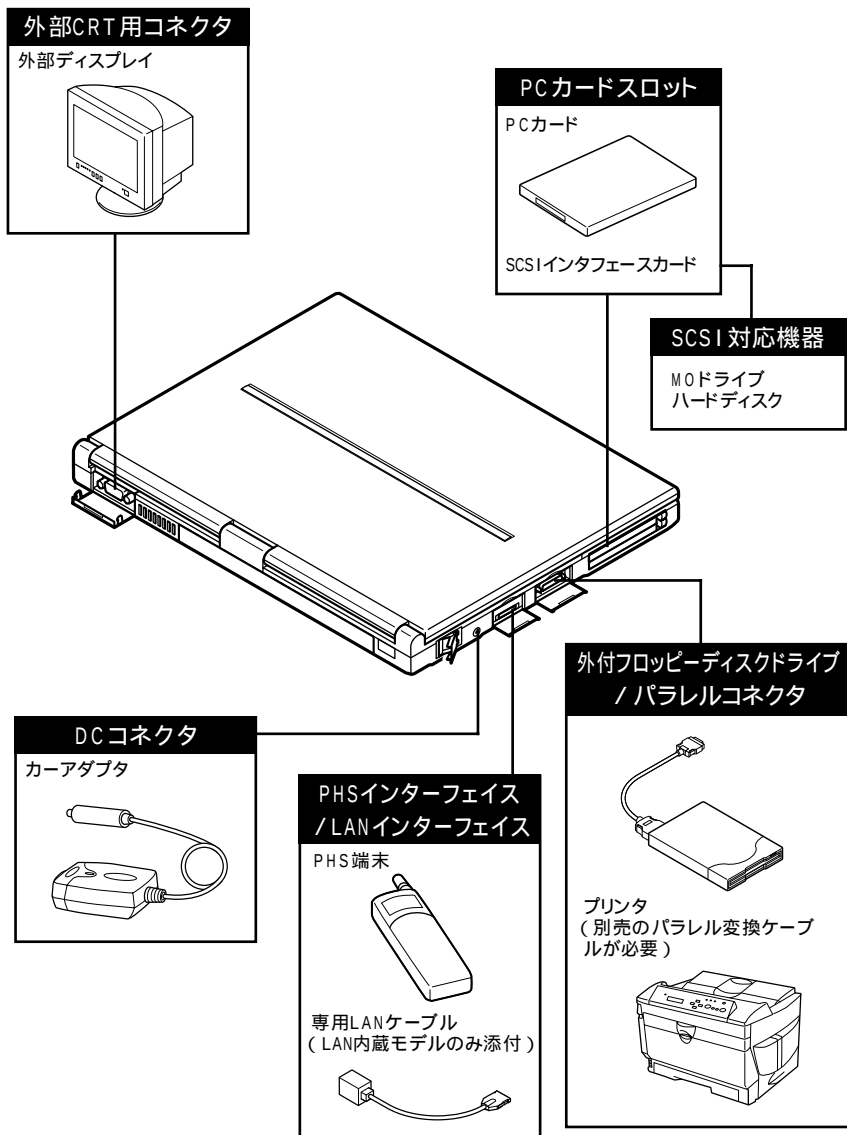
USBコネクタ

USB 機器

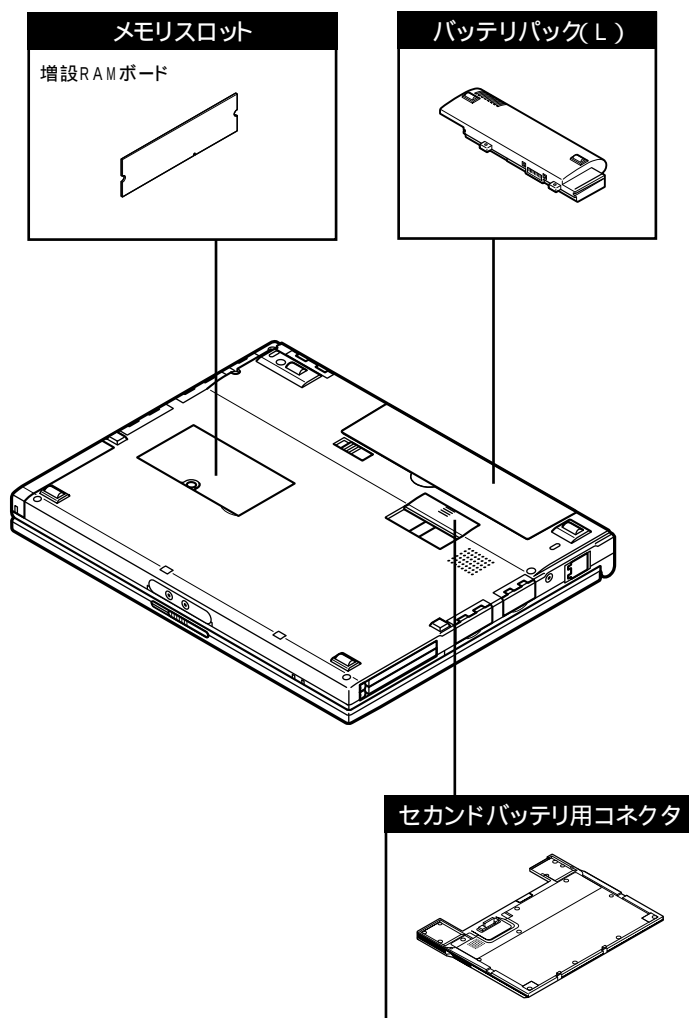


マウス





本体底面



周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

また、別売のUSBポートバーやパラレル変換ケーブルを利用して周辺機器を接続することもできます。

用語 ポート

周辺機器や外部のコンピュータと本機との間で信号(データ)をやり取りするための「窓口」となるのがポートです。やり取りする信号(データ)を船荷に例え、それらを積み降ろしする港(ポート)に例えてこの名前が付いています。WindowsのCOM1ポートはシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器利用上の注意

警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

注意



感電注意

- 周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- 本機がスリープ状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
本機がスリープ状態のときは、一度スリープ状態から復帰させ、データを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

- 1** 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3** 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4**  や  が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5** 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定を使う」を  (オフ) にする
- 6** 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
- 7** 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

✓チェック!! 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

9 「変更不可の環境設定の作成」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする
「Windowsの終了」画面が表示されます。

12 「再起動する」をクリックして「OK」ボタンをクリックする
本機が再起動します。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことです。

✓チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルに従って、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

・「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

・「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

機器を本機に接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

プリンタ

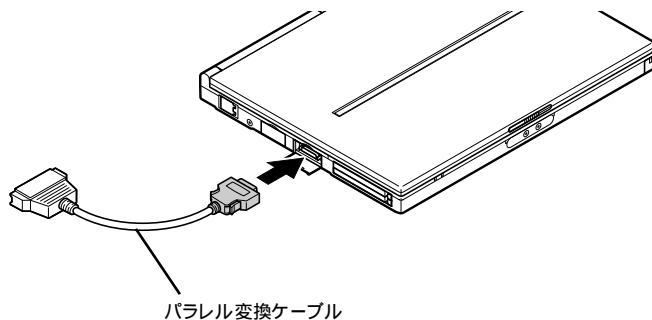
プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

プリンタの接続

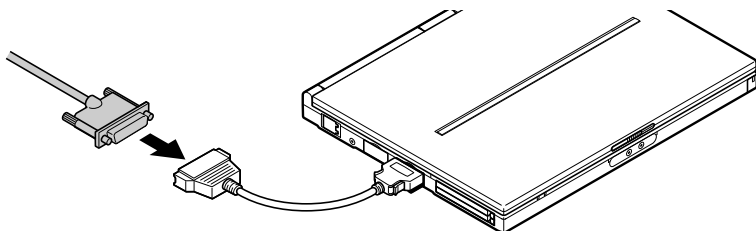
本機とプリンタとを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルと別売のパラレル変換ケーブル(PC-VP-BK02)またはUSBポートバー(PK-UP012 / PK-UP012N)が必要です。プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。

参照 USB対応プリンタを使いたい→このPARTの「USBコネクタ」(p.170)

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** パラレル変換ケーブル(別売)を本体のパラレルコネクタに接続する
変換ケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。



- 4** 本機の平行コネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む



- 5** プリンタケーブルの大きいほうのコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 6** プリンタの電源ケーブルと本機の電源コードをACコンセントに接続する

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

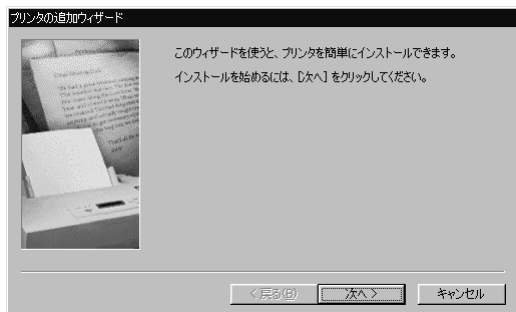
プラグ&プレイ機能(→p.145)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタを本機に接続したあとプリンタ→本機の順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

2

周辺機器を使う

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」または「プリンタウィザード」が表示されます。



画面はWindows 98のものです。
画面はモデルによって異なります。

- 4 「プリンタの追加ウィザード」または「プリンタウィザード」ウィンドウの「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

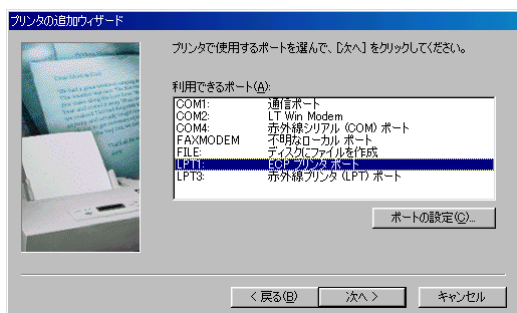
6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種（または互換性のある機種）を選択する



画面はWindows 98のもので、
画面はモデルによって異なります。

プリンタにインストールディスクドライブディスクが添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧ください。インストールディスクの指定を行ってください。

7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ



画面はWindows 98のもので、
画面はモデルによって異なります。

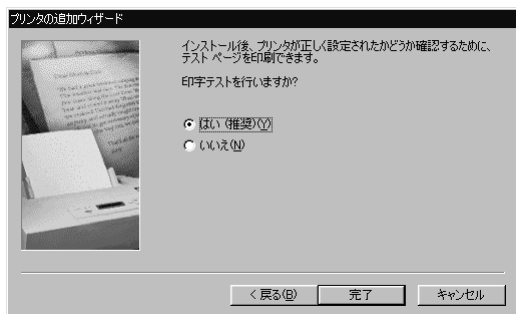
8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」をクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックすると、テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示される

「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。



画面はWindows 98のもので、画面はモデルによって異なります。

10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。

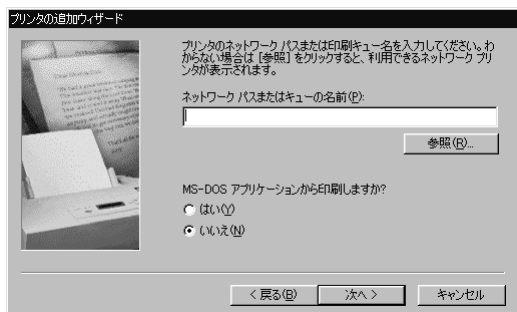
「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

- ❑ **チェック!!** NEC製プリンタMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズのPrintAgentは、Windows 98のスタンバイ機能およびWindows 95のサスペンド機能に対応していません。Windows 98の場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」を開き、「システムスタンバイ」を「なし」にしてください。Windows 95の場合は、「BIOSセットアップメニュー」の「省電力セットアップ」で「省電力レベルの設定」を「オフ」に設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

- 1 「プリンタの設定 (→ p.149)」の手順1～4を行う
- 2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



画面はWindows 98のもので、
画面はモデルによって異なります。

- 3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数 (KHz)	垂直走査 周波数 (Hz)	表示色			
			16色	256色	65,536色	1,677万色
640 × 480	31.5	60	○	○	○	○
	37.5	75	×	○	○	○
	43.3	85	×	○	○	○
800 × 600	37.9	60	×	○	○	○
	46.9	75	×	○	○	○
	53.7	85	×	○	○	○
1,024 × 768	48.4	60	×	○	○	
	60.0	75	×	○	○	

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時に表示する場合は、60MHzになります。

○ : 表示可能

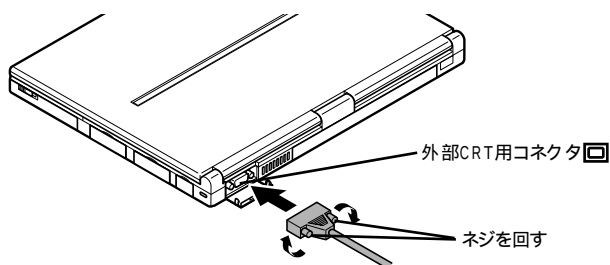
: 12.1型(XGA)モデルのみ表示可能

× : 表示不可能



チェック!! お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ () に差し込み、ネジを回して固定する



- 4** CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5** CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、接続する前にプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

参照 ▶ プロジェクタとの接続 → プロジェクタのマニュアル

外部ディスプレイの設定

表示ディスプレイの切り替え

キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先の切り替えを行うことができます。

参照 ▶ ホットキー機能について → PART1の「キーボード」(p.23)

 **チェック!!** 外部ディスプレイ接続時は、液晶ディスプレイを閉めてもスリープ状態にできません。

ディスプレイに合わせて本機を設定する

■ Windows 98の場合

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3** 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4** 「次へ」ボタンをクリックする
- 5** 「検索方法」で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 6** 「すべてのハードウェアを表示」を選択する
- 7** 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選択する
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「標準モニタの種類」を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。
- 8** 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9** 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10** 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

■ Windows 95の場合

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が開きます。
- 2** 「ディスプレイの詳細」タブをクリックし、「詳細プロパティ」ボタンをクリックする
- 3** 「モニター」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
- 4** 「すべてのデバイスを表示」がある場合はクリックする
- 5** 表示した「デバイスの選択」ウィンドウで「製造元」と「モデル」を選択する
ディスプレイ一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(スタンダードモニター)」、「モデル」では接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。
- 6** 「OK」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 7** 再び「OK」ボタンをクリックする
- 8** 画面のメッセージに従って、Windowsを再起動する
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

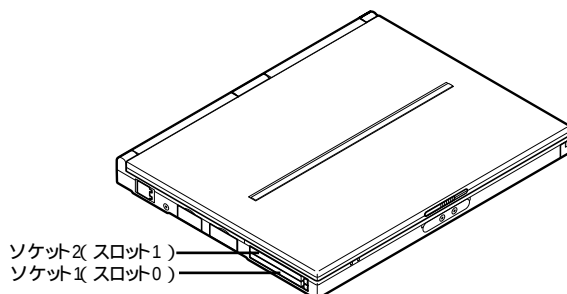
用語 PCカード

PCカードとは、社団法人日本電子工業振興協会(JEIDA)とPCMCIAとの間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモ리카ードやモデムカード、SCSI インターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカードもあります。

使用上の注意

PCカードスロットについて

- ・ TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- ・ ZVポート対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)でのみ使用できます。
- ・ CardBus対応のPCカードは、ソケット2(スロット1)またはソケット1(スロット0)の両方で同時に使うことができます。
- ・ MS-DOSモードでは使用できません。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

PCカード使用時の注意

- ・Windows 95でご利用の場合、ATAカード上のファイルをアプリケーションから開いている場合は、ATAカード上のファイルを閉じてからスタンバイ状態または休止状態にしてください。
- ・Windows 98でご利用の場合、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスリープ状態になるまでに時間がかかります。
- ・マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロットにマルチファンクションカードを、上側のスロットにATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
- ・Windows 95でご利用の場合、ATAカードとCardBus SCSIカードをセットし、「マイコンピュータ」を開くとエラーとなることがあります。この場合はATAカードとCardBus SCSIカードをいったん取り出し、ソケット1に入っていたPCカードをソケット2に、ソケット2に入っていたPCカードをソケット1にセットしなおすとエラーが表示されなくなる場合があります。
- ・ZVポートを利用する場合は、使用するPCカードが本機に対応しているかをあらかじめ販売元に確認してください。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

△注意



- 本機の使用途中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

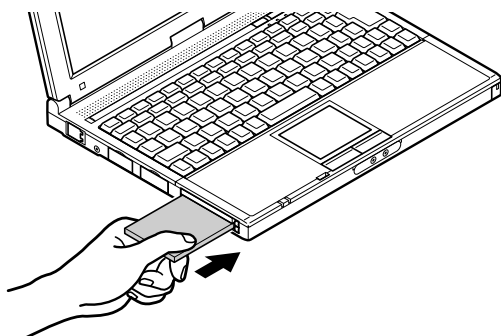


チェック!!

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ 本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーション使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

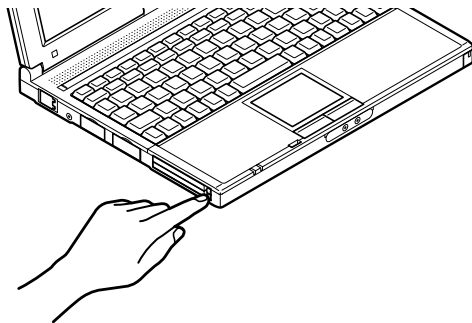
PCカードのセットのしかた

- 1** PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

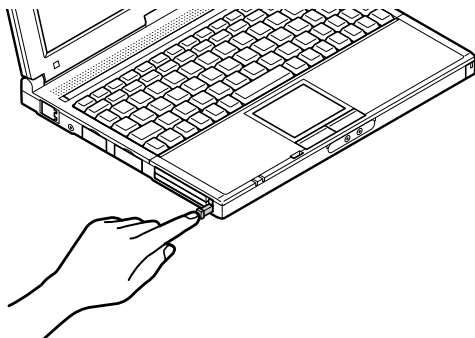


PCカードの取り出し方

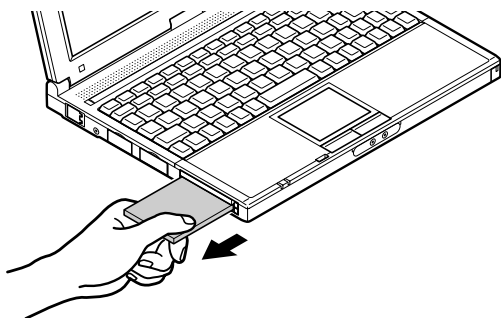
- 1** タスクバーにあるPCカードのアイコン  をダブルクリックする
「PCカード (PCMCIA) のプロパティ」が表示されます。
- 2** 取り外したいPCカードをクリックする
- 3** 「終了」または「停止」ボタンをクリックする
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。
- 4** 「OK」ボタンをクリックする
- 5** PCカードイジェクトボタンを押す
ボタンが手前にとび出します。



- 6** もう一度PCカードイジェクトボタンを押す



7 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→ p. 210) をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト

本機にはメモリスロットが1つあり、最大192Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

⚠注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

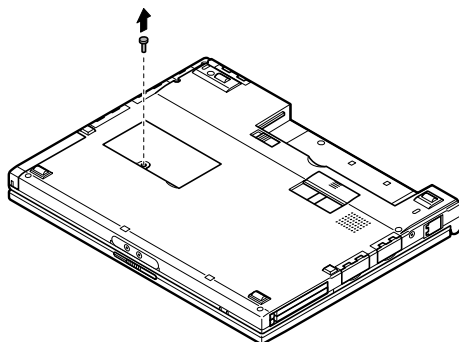


✓チェック!!

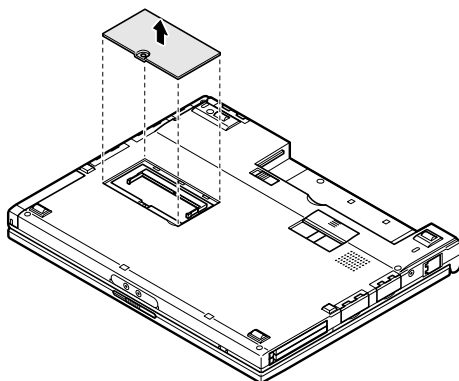
- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

増設RAMボードの取り付け方

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4** バッテリーパックを本機から取り外す(→ p.65)
- 5** 図のネジをプラスドライバで取り外す



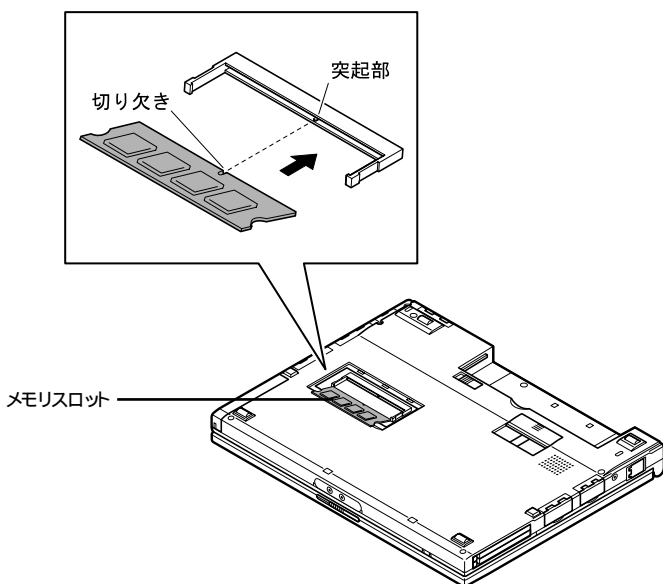
- 6** メモリスロットのカバーを取り外す



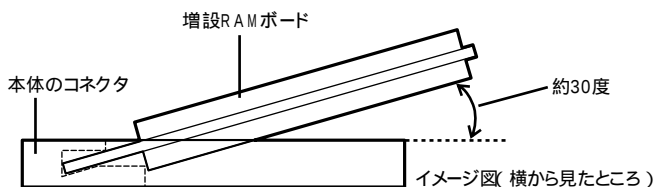
- 7 増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

チェック!! 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。

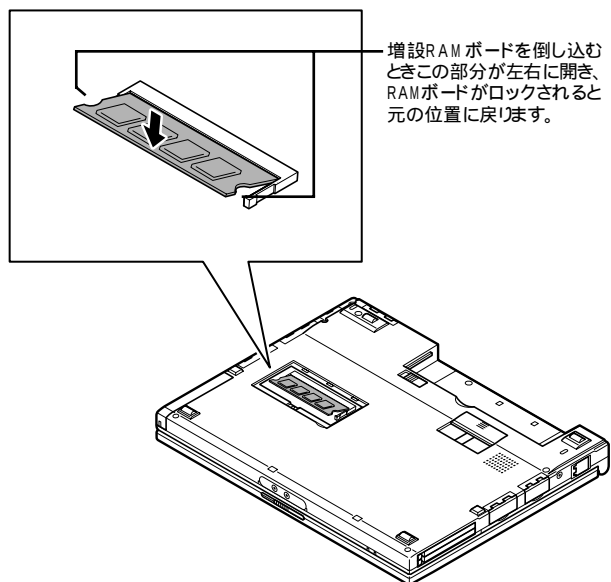
(実物はイラストと多少異なる場合があります)



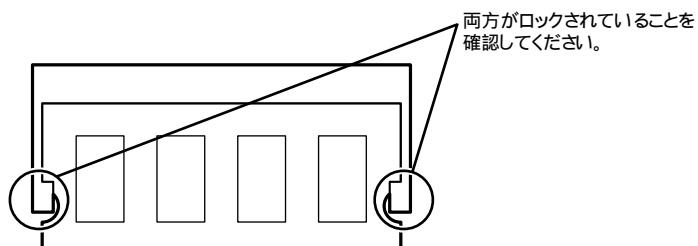
チェック!! 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損する恐れがあります。



8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む



チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

休止状態(ハイバネーション) → p.70, 82)を使用する方は、続けて次の手順11～12の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態(ハイバネーション)が使用できなくなります。

11 本機の電源を入れる

 **チェック!!** 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

12 休止状態(ハイバネーション)の設定を解除したあと、休止状態(ハイバネーション)を再設定する

Windows 98をお使いの場合は、「休止状態の設定の解除と再設定」(→p.76)の手順にしたがって設定を行ってください。

Windows 95をお使いの場合は、「ハイバネーションの設定の解除と再設定」(→p.90)の手順にしたがって設定を行ってください。

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 Windows 98モデルは「全般」タブで、Windows 95モデルは「情報」タブで右下に表示されている、「***MBのRAM」の数値を確認する

***MBが本機の総メモリ容量です。

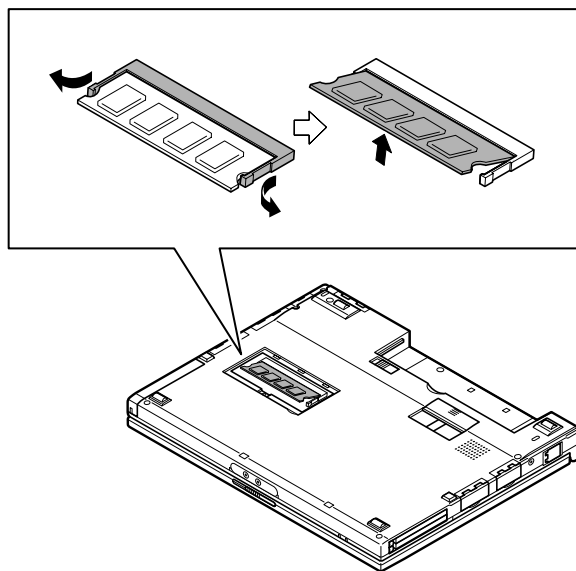
メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ 本機で利用できる増設RAMボードを取り付けているか

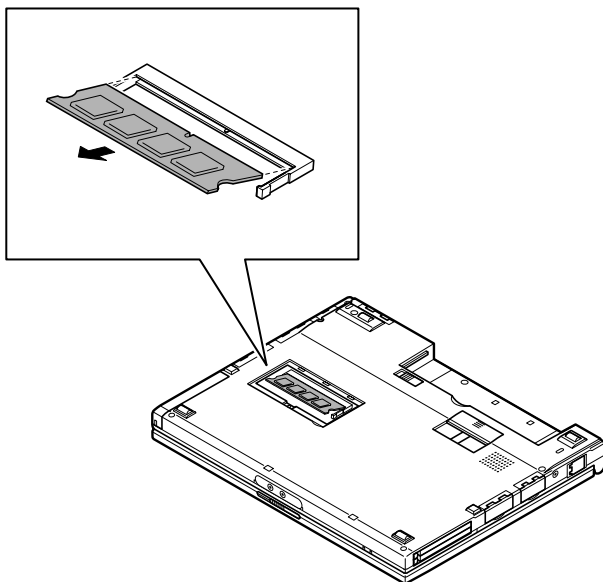
 **チェック!!** システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

増設RAMボードの取り外し方

- 1** 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～6に従って、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2** コネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

5 バッテリーパックを取り付ける

休止状態(ハイバネーション)の機能(→p.70,82)を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態(ハイバネーション)の機能が使用できなくなります。

6 本機の電源を入れる

チェック!! 起動直後にメッセージが表示されますが、ご使用上支障ありません。

7 休止状態(ハイバネーション)の設定を解除したあと、休止状態(ハイバネーション)を再設定する

Windows 98をお使いの場合は、「休止状態の設定の解除と再設定」(→p.76)の手順にしたがって設定を行ってください。

Windows 95をお使いの場合は、「ハイバネーションの設定の解除と再設定」(→p.90)の手順にしたがって設定を行ってください。

USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが3つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・プリンタ
- ・イメージスキャナ
- ・デジタルカメラ
- ・USBポートバー
- ・ISDNターミナルアダプタ など

USBコネクタに接続する

⚠警告



- 雷が鳴りだしたら、パソコンや電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。

落雷による感電のおそれがあります。

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備をしてください。

- ・ 接続するUSBコネクタ対応機器のマニュアルを読む
機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、USB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

- ・パソコンの電源を入れておく

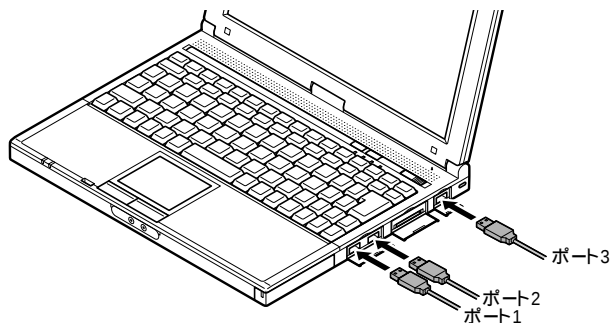
USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できるので、接続前に電源を切る必要はありません。

BIOSセットアップメニューの設定を変更する

「click!-USB」ドライブキット(PK-CL101)などUSBで接続する外付用記憶装置を使う場合は、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ (Peripheral Setup)」で、「USBコントローラ (USB Controller)」を「使用する (Enabled)」に設定してください。

USBコネクタにプラグを差し込む

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む



どのUSBコネクタに接続してもかまいません

- チェック!!** ・コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」の画面にある「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」または「Universal serial bus controller」の記述は削除しないでください。
- ・USBコネクタは、すばやく差したり斜めに差したりすると信号が読みとれず、不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はUSBコネクタを本体から抜いて、もう一度正しく接続し、アプリケーションを再起動してください。
 - ・初めてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

- ・スタンバイ(サスペンド)状態中、スタンバイ(サスペンド)状態へ移行中、スタンバイ(サスペンド)状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。
- ・本機ではUSBハブを内蔵しており、ポート1 / ポート2はハブを経由します。ハブの接続数に制限のあるオプションのUSB機器をポート1 / ポート2に接続して正常に動作しない場合は、ポート3に接続してください。

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

その他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

-  **チェック!!** 本機がスリープ状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。

-  **チェック!!** 本機は、シリアルコネクタを搭載していません。シリアル対応機器を接続するためには、別売のUSBポートバー（PK-UP012 / PK-UP012N）が必要です。

パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

-  **チェック!!** 本機でパラレル対応機器を接続するためには、別売のパラレル変換ケーブル（PC-VP-BK02）またはUSBポートバー（PK-UP012 / PK-UP012N）が必要です。

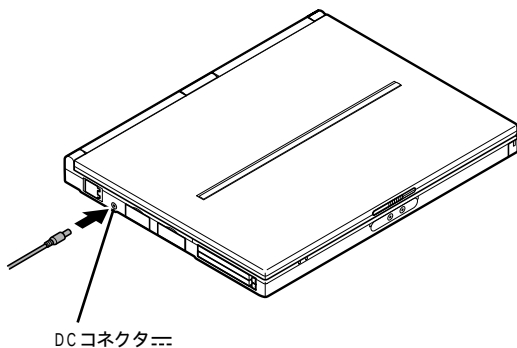
DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。ACアダプタ以外に、カーアダプタ(PC - VP - WP05 - 06)を接続することができます。

カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

カーアダプタを使用する場合は、カーアダプタ本体(PC - VP - WP05)とカーアダプタケーブル(PC - VP - WP05 - 06)の両方を用意する必要があります。

- ✔ **チェック!!** ・ カーアダプタを接続する場合は、必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- ・ 車が走行しているときには本機の電源を入れないでください。振動 / 衝撃などによって本機が故障するおそれがあります。



DC コネクタ

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・起動デバイスの起動順位の設定
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

- 1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
次のような画面が表示されます。

AMIBIOS HIFLEX English SETUP - VERSION x.xx (C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx Standard CMOS Setup Advanced CMOS Setup System Security Setup Power Management Setup Boot Device Setup Peripheral Setup Change Language Setting Refresh Battery Auto Configuration with Defaults Save Setting and Exit Exit Without Saving
Standard CMOS setup for changing time, date, hard disk type, etc. ESC : Exit ↑ ↓ : Sel F3/F4 : Color F10 : Save & Exit

2 【↑】または【↓】を押して「Change Language Setting」を選び、【Enter】を押す

3 【↑】または【↓】を押して「Japanese」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。
以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS
HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx」と表示されます。

AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx (C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx 標準セットアップ 拡張セットアップ セキュリティセットアップ 省電力セットアップ 起動デバイスセットアップ 周辺機器セットアップ 表示言語 (Language) セットアップ バッテリリフレッシュ デフォルト値をロード 変更を保存して終了 変更を保存せずに終了
システム日付、システム時刻、IDEデバイスのタイプなどを変更します。 ESC : 終了 ↑ ↓ : 選択 F3/F4 : カラー F10 : 保存と終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【Fn】+【↑】または【Fn】+【↓】で変更します。
- ・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。

2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

1 メイン画面で【Esc】を押す

2 【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す
起動する前の設定のまま(設定の変更を行った場合は、すべて無効にして)BIOSセットアップメニューが終了します。

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することができます。

工場出荷時の値に戻す

1 メイン画面で【↑】【↓】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる

2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。

3 【←】で「はい」を選び、【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の反転部分は、購入時の設定です。

標準セットアップ

システム日付(年/月/日)

日付を「年/月/日(西暦)」で設定します。

メモリ容量

本機のメモリ容量が自動計算されます。

システム時刻(時:分:秒)

現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。

フロッピーディスクA

フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容	説 明
フロッピーディスクA:	使用しない 1.44MB 3.5"	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブ(FDD)が接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているFDDが使用できます。

内蔵IDE

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。

 **チェック!!** 本設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説 明
Type	ユーザ設定 自動 CD-ROM 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。
Cyl n	0-65535	シリンダ数を設定します。 ¹
Head	0-255	ヘッド数を設定します。 ¹
W P c o m	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。 ¹
Sec	0-255	セクタ数を設定します。 ¹
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。 ²
Blk Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。 ²
PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。 ²
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうか設定できます。

1 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

2 「Type」を「ユーザ設定」、「CD-ROM」に設定したときのみ指定可

拡張IDE

拡張して接続するIDEディスクの設定をします。

 **チェック!!** 本設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説 明
Type	ユーザ設定 自動 CD-ROM 使用しない	接続されるデバイスのタイプを変更します。「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。
Cylinder	0-65535	シリンダ数を設定します。 ¹
Head	0-255	ヘッド数を設定します。 ¹
WP com	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。 ¹
Sector	0-255	セクタ数を設定します。 ¹
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。 ²
Block Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。 ²
PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。 ²
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。

¹「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

²「Type」を「ユーザ設定」「CD-ROM」「スーパーディスク」に設定したときのみ指定可

起動セクタへのウイルス感染防止

設定項目	設定内容	説 明
起動セクタへのウイルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

拡張セットアップ(システムの設定)

LCDパネル拡大表示

設定項目	設定内容	説 明
LCD パネル拡大表示	オン オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうか設定します。

モデルにより購入時の設定が異なります。

12.1型(XGA)モデル : オン

上記以外のモデル : オフ

セキュリティセットアップ

セキュリティの設定を行います。

セキュリティモード

設定するセキュリティのモードを選びます。「パスワード」「スマートカード」「指紋」のうち「スマートカード」「指紋」を選ぶためには、別売のセキュリティ関連拡張機器が必要となります。

参照 「スマートカード」「指紋」を選ぶ→PART1の「セキュリティ機能」(p.94)

パスワード

セキュリティモードで「パスワード」を選ぶと設定できるようになります。

- ・ スーパーバイザパスワードの設定

【Enter】を押すと、パスワード設定の画面が表示されます。

- ・ ユーザパスワードの設定

【Enter】を押すと、パスワード設定の画面が表示されます。スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

起動時のパスワード

設定項目	設定内容	説 明
起動時のパスワード	はい いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

レジューム時のパスワード

設定項目	設定内容	説 明
レジューム時のパスワード	はい いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。起動時のパスワードを「はい」に設定しないと、この項目の設定は変更できません。

スマートカード

「スマートカード」の各設定は、セキュリティモードで「スマートカード」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、スマートカード発行ツール(PK - SM002V2 など)に添付のマニュアルをご覧ください。

指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。詳しくは、PCカード用指紋認証ユニット(PK - FP001)に添付のマニュアルをご覧ください。

ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

-  **チェック!!** パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z 大文字 / 小文字の区別はありません と半角数字の0～9です。

設定項目	設定内容	説明
内蔵HDD パスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかの設定を行います。

-  **チェック!!**
- ・ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。
 - ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分注意してください。

 **参照** ハードディスクのパスワードの設定方法について→ PART1の「セキュリティ機能」(p.94)

省電力セットアップ

省電力機能の設定を行います。

システムスイッチ切り替え

設定項目	設定内容	説 明
システムスイッチ切り替え	パワーボタン スリープボタン	電源スイッチの機能を設定します (「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます)。

AC電源駆動時の省電力

設定項目	設定内容	説 明
AC電源駆動時の省電力	オン オフ	AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。

省電力レベルの設定

設定項目	設定内容	説 明
省電力レベルの設定	オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力	「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」では本機の性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、本機の動作時間を優先した設定になります。

「ユーザ設定」を設定すると、CPUスピード、ハードディスクタイムアウト値などを任意に変更できます。

設定項目	設定内容	説 明
CPU スピード	100% / 50% / 25% / 12.5%	CPUスピードを4つのレベルから選択することができます。
ハードディスクタイムアウト	オフ / 5秒 / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。
ビデオタイムアウト	オフ / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過しても本体のキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。
周辺機器タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。

別売のUSBキーボード、ポインティングデバイスでの操作を除く。

設定項目	設定内容	説 明
オーディオタイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。
自動スタンバイタイムアウト	オフ / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
自動スリープタイムアウト	オフ / 5分 / 10分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

別売のUSBキーボード、ポインティングデバイスでの操作を除く。

LCDパネル連動スリープ

設定項目	設定内容	説 明
LCDパネル連動スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

スリープ種別

設定項目	設定内容	説 明
スリープ種別	サスペンド ハイバネーション	スリープモードの種別を変更します。

自動ハイバネーション

設定項目	設定内容	説 明
自動ハイバネーション	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。

LCDパネル輝度設定

設定項目	設定内容	説 明
LCDパネル輝度設定 ²	自動 ¹ ユーザ設定	LCDパネルの明るさを調節します。

1: 自動設定にすると、起動時には電源を切る前に設定した輝度になり、キーボードやポインティングデバイスからの操作が15秒間ないと自動的に最低輝度になります(ただし、USBキーボード、USBポインティングデバイスからの操作では、最低輝度からの復帰はありません)。

2: ホットキーで設定した輝度が次回起動時にも有効になります。

スリープ時警告音

設定項目	設定内容	説 明
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。

リモート電源制御

設定項目	設定内容	説 明
リモート電源制御	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。

時刻指定によるレジューム

設定項目	設定内容	説 明
時刻指定によるレジューム	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。
レジューム時刻	オフ	スリープモードから復帰する時刻を設定します。「時刻指定によるレジューム」が「使用する」に設定されているときのみ設定できます。Windows 98では、使用することができません。

Windows 98では、この機能は使用できません。

起動デバイスセットアップ

クイックブート

設定項目	設定内容	説 明
クイックブート	使用する 使用しない	BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。

ロゴ表示

設定項目	設定内容	説 明
ロゴ表示	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。

起動時表示デバイス

設定項目	設定内容	説 明
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。

起動時Numロック

設定項目	設定内容	説 明
起動時Numロック	オフ オン	起動時に【Num Lock】キーをロックにするかを設定します。

第一起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。

第二起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM	2番目に起動するドライブを設定します。

第三起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD-ROM	3番目に起動するドライブを設定します。

その他のデバイスから起動

設定項目	設定内容	説 明
その他のデバイスから起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

USBコントローラ

設定項目	設定内容	説 明
USB コントローラ	使用する 使用しない	「使用しない」に設定すると、USBコントローラを初期化しません。

AC '97 Modem

設定項目	設定内容	説 明
AC '97 Modem	使用する 使用しない	内蔵FAXモデムを使用するかを設定します。

内蔵ハードディスク

設定項目	設定内容	説 明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。

シリアルポート(PIAFSモデル/ワイヤレスモデルのみ)

設定項目	設定内容	説 明
シリアルポート	使用しない COM1 IRQ4 COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

パラレルポート

設定項目	設定内容	説 明
パラレルポート	使用しない LPT1 LPT2 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。
パラレルモード	EPP ECP 出力のみ 双方向	パラレルポートのモードを設定します。特定の周辺機器は、特殊パラレルモードでしか動作しません。それぞれの周辺機器のマニュアルを参照してください。

赤外線ポート

設定項目	設定内容	説 明
赤外線ポート	使用しない COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

PIAFS使用時のランプ切り替え(PIAFSモデル/ワイヤレスモデルのみ)

設定項目	設定内容	説 明
PIAFS使用時のランプ切り替え	着信 圈内	「圈内」にすると、メール着信ランプ(☑)を圈内/圏外表示ランプとして使用することができます。メール着信ランプとして使用するには「着信」に設定します。

PIAFSモデルの場合、この項目が表示されますが設定は無効です。

表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

表示言語(Language)セットアップ

設定項目	設定内容	説 明
表示言語 (Language) セットアップ	英語(English) 日本語(Japanese) フランス語(French)	標準では英語に設定されています。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。

 参照 バッテリーリフレッシュ → PART1の「 バッテリーリフレッシュ 」 (→ p. 61)

P A R T

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

△注意



- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

準備するもの

汚れが軽いとき

乾いたやわらかい素材のきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。

OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。



NECのお問い合わせ先 → 『NEC PCあんしんサポートガイド』または『メンテナンス&サポートのご案内』

お手入れをする

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- **チェック!!** ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡ってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。

パソコン

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。

NX パッド

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。

キーボード

乾いたやわらかい素材のきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、強くしぼったきれいな布で拭きます。キーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECサービスセンター、サービスステーションに問い合わせてください。
NECのお問い合わせ先:『NEC PC あんしんサポートガイド』または『メンテナンス&サポートのご案内』

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。



FAT32 ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsにおいて、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録・管理するシステムのことで、

Windows 98およびWindows 95モデルにインストールされているWindows 95では次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

- ・ FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます

- ・ FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます



参照 FAT32に関する情報 → 「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときには、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・ FAT32はWindows 98、またはWindows 95モデルにインストールされているWindows 98、Windows 95で使うことができます
- ・ FAT32はWindows NT 4.0では利用できません
- ・ 別売のソフトウェアによっては正しく動作しないことがあります
- ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません
- ・ FAT16に変更するには、カスタム再セットアップする必要があります

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。

また、Windows 98で「ドライブコンバータ(FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。「ドライブコンバータ(FAT32)」について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。
- 2** ハードディスクの容量が8,192Mバイト以下の場合はFDISK /x、
8,193Mバイト以上のときはFDISKと入力し【Enter】を押す
ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、大容量ディスクの
サポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
- 3** 【Y】を押して【Enter】を押す
- 4** 領域を作成する
512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用さ
れます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的に
FAT16が適用されます。
- 5** 「FDISK」を終了し、本機を再起動する
- 6** 作成したドライブをフォーマットする



Windows 98のACPIモードについて

Windows 98では、電源を管理するモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードがあります。

Windows 98モデルは購入時には、APMモードに設定されているため、このマニュアルもAPMモードで使用していることを前提に記載しています。ここでは、本機をWindows 98のACPIモードで利用する場合の制限事項と、モードの切り替え方法を説明しています。

ACPIモード時の制限事項

本機をACPIモードで利用するときには次のような制限事項があります。モードを切り替える際は、注意してください。

ホットキー機能(→p.25)

次のホットキー機能は使えません。

【Fn】+ 電源スイッチ(休止状態)

【Fn】+【Esc】スタンバイ)

【Fn】+【F4】スリープ)

【Fn】+【F5】節電レベル選択)

バッテリー残量が少ないときの動作(→p.58)

バッテリー残量が少なくなり、新たに電源が供給されないと、しばらくすると本機の電源が切れます。

なお、バッテリー残量が少ない場合の動作については、Windowsで設定することができます。

設定の手順は次のとおりです。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「アラーム」タブをクリックする
- 3** バッテリー残量が少ないときと、バッテリー残量が残りのわずかなときに、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラーム動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。

4 「OK」ボタンをクリックする

 **チェック!!** バッテリ低下アラームとバッテリ切れアラームの設定値は、8%、3%未満に設定しても、それぞれ8%、3%で動作します。

BIOSセットアップメニュー(→p.176)

ACPIモード時には、「省電力管理」の設定はすべて無効になります。

内蔵LANアダプタ

ACPIモードでサスペンドや内蔵LANアダプタによるリモート電源制御をお使いになる場合は、次の設定が必要になります。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「ネットワークアダプタ」をクリックする

4 内蔵LANアダプタをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「電源の管理」タブをクリックする

6 使用する機能によって、次の設定を行う

内蔵LANアダプタによるリモート電源制御機能を使う場合は、「節電のためコンピュータの電源を自動的に切る」を☒にする
サスペンド機能を使う場合は、「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を☒にする

7 内蔵LANアダプタのプロパティの画面で「OK」ボタンをクリックする

8 「システムのプロパティ」の画面で「OK」ボタンをクリックする

 **チェック!!** 内蔵LANアダプタのEnable PMEの値は、初期値の「Hardware Default」から変更しないでください。Enable PMEの値は、「ネットワークコンピュータのプロパティ」→「内蔵LANアダプタのプロパティ」→「詳細設定」で確認できます。

モードを確認する

本機がどちらのモードで動作しているかは、「デバイスマネージャ」で確認できます。モードを切り替える際は、必ず現在のモードを確認してください。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」が表示されます。
- 3** 「システムデバイス」をダブルクリックする
「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。
ここに表示されている内容によって、どちらのモードか確認できます。
 - ・APMモードのとき
「アドバンスド パワーマネジメント サポート」
 - ・ACPIモードのとき
「ACPI × × × × 」など

モードの切り替え方

モード切り替えについて

ACPI モードでは、パワーマネジメント管理用に、割り込み(IRQ9)を1つ使用します。

モード切り替えの際に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動した場合は、画面の指示に従って、“ C : ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS ”からドライバの組み込みを行ってください。

また、モードを切り替えると、画面の設定が640×480ピクセル16色になります。「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロールパネル」を開き、画面のアイコンをダブルクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを開き、「設定」タブでもとの設定に直したあと、本機を再起動してください。

APMモードからACPIモードへ切り替える

 **チェック!!** APMモードからACPIモードへの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみ可能です。

 **参照**▶ 再セットアップ→『活用ガイド 再セットアップ編』

1. 切り替え準備

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
エクスプローラが起動します。
- 2** Cドライブの「Modechg」フォルダ→「Acpi_apm」ファイルをダブルクリックする
「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい」と表示されます。
- 3** 「OK」ボタンをクリックする
「ACPIを有効にする準備ができました」と表示されます。
- 4** 「OK」ボタンをクリックする

2. ハードウェアの再設定

1 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする
「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

2 「次へ」ボタンをクリックする

3 もう一度「次へ」ボタンをクリックする
「インストールするデバイス是一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイス是一覧にない」の  をクリックして  (オン) にしてから「次へ」ボタンをクリックします。

4 「はい」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする

5 「次へ」ボタンをクリックする
デバイスの検索が自動的に行われます。

6 「完了」ボタンをクリックする

7 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
本機が自動的に再起動し、新しいハードウェアの設定が行われます。
しばらく時間がかかりますので、そのままお待ちください。

Windows 98 CD-ROMをセットするようというメッセージが表示された場合は、“C:\¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS”を指定して、ドライバの組み込みを行ってください。

8 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
もう一度、本機が再起動し、モードがACPIモードに切り替わります。

9 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
エクスプローラが起動します。

10 「Modechg」→「Apmoff」ファイルをダブルクリックする
レジストリエディタの画面が表示され、「C:¥MODECHG¥APMOFF.REG
の情報をレジストリに追加しますか?」と表示されます。

11 「はい」ボタンをクリックする
「C:¥MODECHG¥APMOFF.REGの情報が、レジストリに正しく入
力されました。」と表示されます。

12 「OK」ボタンをクリックする

13 本機を再起動する

3. デバイスの確認

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」で「コントロー
ルパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「システムデバイス」をダ
ブルクリックして「ACPI × × × ×」が存在するかどうか確認する
これで、APMモードからACPIモードへの切り替えが終了しました。

ACPIモード時の注意事項

ACPIモード時には、次の点に注意してください。

- ・スタンバイ状態のときにバッテリー残量がなくなると、データが消えてしまいま
す。バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認
しておいてください。
- ・MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときに本機をスリープ状
態にすると、画面が正しく復帰されないことがあります。このような場合は、
【Alt】を押しながら【Tab】を押してタスクを切り替えると、正しく表示される
ようになります。
- ・ACPIモードにおいて、本機のPCカードスロットで、CardBus対応のSCSI
またはIDEインターフェイスカードを使用する場合、スリープ状態から正常に
復帰できないことがあります。これらのPCカードを使用するときは、スタンバ
イ状態にする前にPCカードを取り外してから、スタンバイ/復帰を行ってくだ
さい。

休止状態にするとき、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」
を選んで、休止状態にすることはできません。

 **チェック!!** ACPI モードからAPMモードへ戻す場合には、本機を再セットアップしてください。

 参照 再セットアップ → 『活用ガイド 再セットアップ編』

バッテリー駆動時にサスペンドするときは

本機をACPIモードで使用している場合で、バッテリー駆動中にサスペンドするときは、次の設定を行うとサスペンド保持時間を延ばすことができます。

設定する

- 1** Windows画面右下のアイコン「Intel(R) PROSet」を開き、「Advanced」の「Enable PME」にカーソルを合わせる
- 2** Value値を「Disabled」に変更し、「OK」ボタンをクリックする
- 3** 本機を再起動する

設定を解除する

設定を解除するときは、次の手順で行います。

- 1** Windows画面右下のアイコン「Intel(R) PROSet」を開き、「Advanced」の「Enable PME」にカーソルを合わせる
- 2** Value値を「Hardware default」に変更し、「OK」ボタンをクリックする
- 3** 本機を再起動する

機能一覧

仕様一覧

の項目は、ご使用のモデルによって異なります。

4

付録

機種名		VA50J/BH	VA40H/BS	VA33H/BC
CPU		Mobile Pentium プロセッサ500MHz	Mobile Intel Celeron プロセッサ400MHz	Mobile Intel Celeron プロセッサ333MHz
	内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
	セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵) 128Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
	メインRAM	64Mバイト/96Mバイト/128Mバイト (VA50Jはシステムバス100MHz対応、VA40H、VA33Hはシステムバス66MHz対応)		
	最大	192Mバイト(別売の増設RAMボード128Mバイトを1枚増設した場合)		
表示機能	ビデオRAM	4Mバイト	2Mバイト	
	表示素子	バックライト付12.1型 (XGA)TFTカラー液晶 ディスプレイ ¹	バックライト付12.1型 (SVGA)TFTカラー液晶 ディスプレイ ¹	バックライト付10.4型 (SVGA)TFTカラー液晶 ディスプレイ ¹
	ウィンドウアクセラレータ	VA50Jの場合: Silicon Motion社製LynxEM4標準搭載 640×480ドット(16色/26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1,024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) VA40H、VA33Hの場合: Silicon Motion社製LynxEM標準搭載 640×480ドット(16色/26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)		
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色/256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(256色/65536色/1677万色) VA50Jのみ		
サウンド機能	サウンドチップ	ESSテクノロジー社製 ESS1946X(Solo-1E)搭載		
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz)全二重化対応(モノラル、量子化8ビット時)		
	FM音源機能	内蔵		
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵		
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能		

機種名		VA50J/BH	VA40H/BS	VA33H/BC
通信機能	モデム	モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	ワイヤレス通信機能	なし / ワイヤレスモデムステーション 添付(ワイヤレスデータ通信機能内蔵 デュアルリンクワイヤレス通信機能 ² PIAFS32K対応)		
	FAX	データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1		
	PIAFS	なし / 内蔵(データ転送速度 最大32Kbps データ圧縮:V.42bis ³		
	LAN	なし / 内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・右Ctrlキー付		
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	外付3.5型フロッピーディスクドライブ×1(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)		
	固定ディスクドライブ	約6Gバイト / 約12Gバイト ⁴		
	CD-ROMドライブ	なし / 外付CD-ROMドライブ (添付の場合 XAV方式、CD-DA(オーディオCD) \ CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE(FORM1/2) マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速) \ データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速		
インターフェイス		フロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15) \ USB×3		
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) \ マイク入力(モノラル、ミニジャック) \ マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) \ ライン出力レベル1Vrms		
PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可) ⁵ PC Card Standard準拠、CardBus / ZVポート対応 ⁶		
パワーマネジメント		自動または任意設定可能		
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、ハードディスクのパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用) \ スマートカード(別売)		
バッテリー駆動時間 ⁷		約1.1～1.8時間 (オプションバッテリー接続時 約6.6～10.5時間)	約1.2～1.9時間 (オプションバッテリー接続時 約6.7～10.6時間)	約1.2～2.2時間 (オプションバッテリー接続時 約8.2～12.7時間)
バッテリー充電時間 ⁷		約2.1時間(電源OFF時約1.6時間)		
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁷ (バッテリフル充電時)		約3日		

機種名	VA50J/BH	VA40H/BS	VA33H/BC
電源	リチウムイオンバッテリー(DC10.8V、1,550mAh / バッテリーパック(L)接続時 3,600mAh) ⁸ またはAC100V ± 10 %、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁹		
消費電力	約13W		約11W
	内蔵オプション最大接続時 約45W		
温湿度条件	5 ~ 35 °C、20 ~ 80% RH (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	283(W) × 224(D) × 21(H)mm (最上部27(H)mm 突起部含まず)		
質量 ⁷	約1.52kg	約1.55kg	約1.36kg

1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

2: デュアルリンクワイヤレス通信は、NEC独自のモードです。

3: 米国特許 第4,588,302号 ライセンス済み。Licensed under U.S. Patent 4,588,302

4: 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5: Windows 98またはWindows 95のMS-DOSモードでは使用できません。

6: ZVポート対応のPCカードは、下のスロットのみで使用できます。ただし、Windows NT 4.0では使用できません。

7: 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8: バッテリーパックは消耗品です。

9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

10: 18 ~ 25 °C、45 ~ 75 %での使用を推奨。

内蔵FAXモデム機能仕様

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス 16550A相当(I/Oアクセス、割り込み)
NCU 部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	・CPU 直結パラレルアクセスによる高スループット K56flex、V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/32000 ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/ 40000/38000/36000/34000/33600/32000/31200/28800/26400/ 24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-6 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2 ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥Windows¥ATCREAD.DOC

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

PHS(PIAFS)インターフェイス

PHSインターフェイス機能

項目	規格
適用回線	移動電話回線(PHS 後位16芯) NTT DoCoMo
自動発着信	ATコマンド
通信速度	32kbps
通信規格	PIAFS1.2
データ圧縮修復方式	V.42bis

ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥WINDOWS¥PIAFS_ATC.DOC

C:¥WINDOWS¥WIRELESS.DOC(ワイヤレスモデルで使用する場合)

ワイヤレス通信機能

ワイヤレス通信機能は、ワイヤレスモデルのみの機能です。

項目	規格
適用回線	自営標準 第3版準拠
通信速度	32Kデータ通信:29.2Kbps(無線実行速度) 64Kデータ通信(デュアルリンクワイヤレス通信 ¹):58.4Kbps
通信規格	RCR STD-28
制御コマンド	ATコマンド ²

1: デュアルリンクワイヤレス通信はNEC独自モードです。

2: ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥WINDOWS¥WIRELESS.DOC

内蔵LAN機能仕様(LAN内蔵モデルのみ)

規格概要

項 目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 / ネットワーク経路長	100BASE-TX: 最大200m / ステーション間 10BASE-T: 最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル (IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態 (リソースの競合) では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル (IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを定めるものです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	(空き) ²
1	キーボード	10	USBホストコントローラ 内蔵LANインターフェイス アクセラレータ CardBusコントローラ ³
2	割り込みコントローラ		
3	赤外線通信 ¹		
4	通信ポート		
5	サウンド 内蔵FAXモデム CardBusコントローラ	11	(空き)
		12	NXパッド
		13	数値データプロセッサ
6	フロッピーディスクコントローラ	14	IDEコントローラ (内蔵ハードディスク) IDEコントローラ (内蔵CD-ROM)
7	プリンタポート		
8	システムクロック	15	(空き)

1: 赤外線通信機能使用時

2: ACPIモードのとき、ACPI用システム制御割り込み

3: LAN内蔵モデルのみ

DMA チャンネル

「DMA チャンネル」は、CPU を経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

D M A	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポートを E C P で使用する 場合(#1 使用時)	プリンタポートを E C P で使用する 場合(#0 使用時)	更に I R を使用する 場合
# 0	(空き)	(空き)	E C P	E C P ¹
# 1	サウンド ³	E C P	サウンド ³	I R ²
# 2	フロッピーディスクコントローラ			
# 3	(空き)	サウンド ³	(空き)	サウンド ³
# 4	DMA コントローラ			

1: E C P が # 1 のときは I R

2: I R が # 0 のときは E C P

3: Windows 98 モデルでは使用しません。



索引

索引

英字

ACPI モード 81, 196
APM モード 81
ATOK13 27
BIOS セットアップメニュー 176
CD-ROM ドライブ 39, 140
CD-ROM ドライブ用コネクタ 16
CRT ディスプレイ 153
DC コネクタ(本体) 17, 141, 174
DC コネクタ(CD-ROM ドライブ) 39
DMA チャネル 211
FAT16 194
FAT32 194
FAX モデム 114, 206
FDISK 195
【Fn】エフエヌキー) 25
IntelliSync 107
LAN 134, 209
LAN インターフェイス 17, 141
MS-IME 27
NX パッド 16, 29, 193
NX パッドの設定 30
PC カード 158
PC カードイジェクトボタン 161
PC カードスロット 17, 141, 158
PHS インターフェイス 17, 129, 141, 208
PIAFS 129
RAM 163
USB 170
USB コネクタ 16, 140, 170
Virtual CD 2 43

あ行

アクセスランプ(本体) 19
アクセスランプ(CD-ROM ドライブ) .. 39
イジェクトスイッチ 39
インターネット設定切替ツール 119

液晶ディスプレイ 16, 48, 193
お手入れ 192

か行

解像度 48, 153
外部CRT用コネクタ 17, 141, 154
外部ディスプレイ 153
外部マイクロホン端子 16, 140
拡張セットアップ 182
仮想CD-ROM ドライブ 43
画面回転機能 55
画面表示の調整 48
輝度 48
起動セクタへのウイルス感染防止 ... 103
起動デバイスセットアップ 187
キーボード 16, 23, 193
キーボードの設定 26
キーボードロック 98
キャプスロックキーランプ 19
休止状態 70, 74
共有プリンタ 152
クライアントモニタリング 137
クリック 29
クリックボタン 29
ケーブル接続 107

さ行

サウンド機能 109
サスペンド 70, 71, 82, 83
指紋認証ユニット 103
周辺機器 140, 141, 142
周辺機器セットアップ 188
省電力機能 70, 82
省電力セットアップ 184
省電力モード切り替えスイッチ 39
シリアルコネクタ 173
シリアルポート 173
スーパバイザパスワード 94

スキャンディスク	34
スクロールロックキーランプ	19
スタンバイ状態	70, 71
スタンバイモード	82, 83
ストップボタン	39, 41
スピーカ	16
スマートカード	103
スリープ状態	70, 82
セカンドバッテリー	66
セカンドバッテリー用コネクタ	17, 142
赤外線通信機能	104
赤外線通信ポート	16, 106
赤外線転送	108
赤外線モニタ	105
セキュリティ機能	94
セキュリティセットアップ	182
専用LANケーブル	135, 141
増設RAM ボード	142, 163

た行

タップ	29
ダブルクリック	29
ダブルタップ	29
通風孔	17
ディスプレイストレッチ機能	55
デバイスドライバ	145
デフラグ	35
デュアルディスプレイ機能	53
テンキーボード	26
電源コード	193
電源スイッチ	16
電源ランプ	18
電話回線用モジュラーコネクタ	17
盗難防止用ロック	16, 103
トーン調整	113
ドラッグ	30

な行

内蔵マイクロホン	16
日本語入力システム	27
ニューメリックロックキーランプ	19
ネットワークブート	138

は行

バーチャルスクリーン	51
ハードディスク	31
ハードディスクのパスワード	99
ハイバネーション	70, 74, 82, 87
パスワード	94, 99
バッテリアンロック	17
バッテリー残量	59
バッテリー充電ランプ	19
バッテリーの充電	58
バッテリーパック	17, 57, 63, 66, 142
バッテリーパックの交換	63
バッテリー容量	66
バッテリーリフレッシュ	61
パッド	29
パラレルコネクタ	17, 141, 173
パラレル変換ケーブル	147
パワーマネージメント	71, 79, 83, 93
ビープ音量の調節	25
表示言語セットアップ	190
表示色	49, 153
表示ランプ	16, 18
標準セットアップ	179
フォーマット(ハードディスク)	33
復帰	70, 73, 76
プラグ&プレイ	145
プリンタ	147
プリンタケーブル	148
プレイボタン	39, 40
プロジェクト	155
フロッピーディスクアクセスランプ	38

フロッピーディスクイジェクトボタン ... 38
フロッピーディスクドライブ .. 36, 141, 193
フロッピーディスクドライブ用コネクタ . 17, 37
ヘッドホン / オーディオ出力端子 . 16, 140
ヘッドホンジャック 39
ポインタ 29
ポインティングデバイス 29
ポート 143
ホットキー機能 25
ボリュームコントロール 109

ま行

マスタパスワード 99
メール着信ランプ 16, 19
メモリ 163
メモリスロット 17, 142, 165
モジュラーケーブル 115
モデム(内蔵) 114, 206

や行

ユーザパスワード 95, 99
ユニバーサル管理アドレス 136

ら行

リソースの競合 144
リモートコントロール 138
領域の確保 31
レジューム 70, 73, 76, 82, 86, 89
ロックレバー 16

わ行

ワイヤレス通信機能 125, 208
割り込みレベル 210
ワンタッチスタートボタン 16, 20
ワンタッチスタートボタンの設定 21



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

VersaPro NX

VA50J/BH・VA40H/BS・VA33H/BC

初版 2000年1月

NEC

P

808-883877-024-A